

164  
489

德育古今名譽鑑  
卷之壹



名譽鑑卷之一目次

第一項 (仁德天皇)	第一頁	第十七項 (孟嘗君)	第廿四頁
第二項 (大舜)	第二頁	第十八項 (楊震)	第廿七頁
第三項 (源義家)	第二頁	第十九項 (諸葛孔明)	第廿七頁
第四項 (韓信)	第三頁	第二十項 (上杉謙信)	第廿八頁
第五項 (羽柴秀吉)	第四頁	第二十一項 (郭子儀)	第三十頁
第六項 (司馬溫公)	第五頁	第二十二項 (森蘭丸)	第卅一頁
第七項 (上杉謙信)	第五頁	第二十三項 (史魚)	第卅二頁
第八項 (李太白)	第七頁	第二十四項 (毛利元就)	第卅四頁
第九項 (小野道風)	第八頁	第二十五項 (塞翁馬)	第卅五頁
第十項 (晋ノ趙盾)	第九頁	第二十六項 (長尾景虎)	第卅八頁
第十一項 (同)	第十頁	第二十七項 (大石良雄)	第卅九頁
第十二項 (濱田彌兵衛)	第十二頁	○玄堂茶碗注文心得	第四十頁
第十三項 (晋ノ魏顆)	第十六頁	○小包郵便運送費目	第四十二頁
第十四項 (松平信綱)	第十八頁	○明家揮毫云云	第四十四頁
第十五項 (楚ノ子發)	第二十頁	○玄堂筆架使用法	第四十五頁
第十六項 (熊澤了介)	廿二頁	○陶製標札之件	第四十八頁

德育古今名譽鑑緒言

此書ハ何ノ爲ニ作ルヤ玄堂茶碗ノ意匠畫此意匠ハ茶碗ヲ

室茶碗ナヲ説キ明ヌ爲メニ作ルナリ夫レ人ノ耳目

心ノ先導者ニシテ善ヲ聞キ善ヲ見ル者ハ其心善

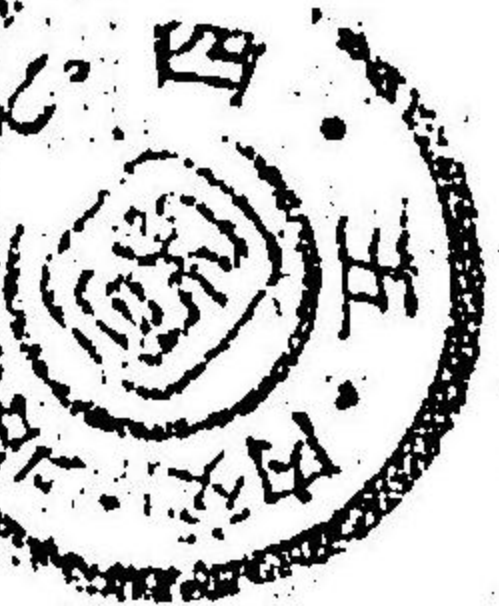
聞キ悪キヲ見ル者ハ其心悪キニ赴ク

自然ノ理ハ感映シ外形ニ現ハル、所ノ者遂ニ内

心ノ善悪ヲ左右ス故ニ聖人モ非禮見ル勿レ非禮聞

ク勿レノ語アリ耳目ノ感ハ中心ノ善悪智愚正邪ノ

因テ判ル、所ナリ豈忽セニス可ンヤ人ノ父母タル





者其子弟ノ善良秀俊ナルヲ欲セバ只學校ニノミ一  
任スルヲ以テ足レリトセンヤ必ズ子弟ノ爲メ用意  
スル處ヲクシテ可ナランヤ是ニ於テ不肖立堂兒童  
諸君ノ爲メ一考案ヲ按出セシニ付陶製標札製造ノ  
傍此器ヲ製シ自己ノ營業昌盛ヲ謀ルノミナラズ需  
用諸君子弟教育ノ一助トナリ智育德育ノ増進スル  
有ルヲ希フ抑飲食器ハ兒童老壯ノ別ヲク必ズ毎日  
數回之ニ觸レ之ヲ見ザルヲ得ズ然ルニ惜哉古來之  
ニ繪畫ヲ施スヤ極テ疎麤ニシテ密畫ノ物ナク又畫  
外ノ意味ヲ含有スルノ趣キナク例ヘバ其龍ヲ畫ク  
ヤ蚯蚓ノ如ク其虎ヲ摸スルヤ麴ノ如ク縱令密畫ヲ

掲グルモ竹林ノ七賢或ハ赤壁ノ山水及ビ鳥獸羽毛  
ノ美ヲ寫スニ止リ人ヲシテ感覺ヲ起サシムルノ妙  
ナシ故ニ此舊慣ヲ改良シ一見必ズ感アラシムルノ  
密畫ヲ摸寫シ其畫タルヤ古人孝悌忠信聰明叡智行  
爲ノ事跡ヲ掲ゲ朝夕耳目ニ觸レシメバ知ラズ識ラ  
ズ其智識ヲ發育シ或ハ信義ノ重ンズ可キヲ知リ或  
ハ勇壯ノ圖ヲ掲ゲ以テ怯惰ノ心ヲ醫セシムル等ノ  
意匠ヲ用ヒバ毎日飲食ノ度必ズ之ヲ看覽シ之ヲ思  
維セン之レ督責説諭ノ勞ヲク子弟ノ耳目ヲ樂マシ  
ムルト共ニ其良心ヲ養ヒ其智ヲ増シ其忍耐ノ度ヲ  
強フシ其益スル處豈小少ナランヤ爰ニ一兒アリ我



製スル處ノ器ヲ見バ必ズ其畫ニ注目シ之ヲ其父母  
 若クハ兄ニ此圖ハ如何ント問フ可シ父母其所以ヲ  
 説明(玄堂ノ賣品ハ都テ此ノ名譽鑑ヲ附屬スルニ)スルニ臨  
 ミ子弟ハ其畫ヲ熟視スルト共ニ其言ヲ聞キ其心ニ  
 感ズルヤ必ズ善必ズ智必ズ勇其事ヲ聞クヤ必ズ喜  
 ブ而テ飲食ノ度必ズ其事ヲ思ヒ其言ヲ誦セン之レ  
 父兄ノ責メ督スヲ俟タズシテ毎日數回ノ教ヲ施シ  
 其善其智ノ發達ヲ勸メ亦之ヲ催促スルノ道ナリ其  
 善ヲ促シ其智ヲ英敏ニシ常ニ心ヲ善域ニ遊バシメ  
 智環ノ働ヲ鋭フスルノ道ニ至リテハ獨リ兒童ノミ  
 ナラシヤ大人亦然リ夫レ書籍ヲ繙キ其事ヲ知ルト

雖ニ帙ヲ廢スレバ之ヲ棚ニシ心亦他事ニ涉ルヲ以  
 テ思ヒ出ス事稀ナリ故ニ殷ノ湯王ハ日新ノ語ヲ浴  
 盤ニ書シ子張ハ教ヲ紳ニ書スルモ皆常ニ心ヲ善ニ  
 導キ片時モ善ヲ忘レザルヲ欲シ之ヲ身ノ近キ處目  
 ノ觸ル、處ニ書載セシナリ張橫渠ノ西銘東銘アル  
 ガ如シ今我企ツル處ハ盤紳ニ代用スルノ方法ニシ  
 テ其功用ヲ例証セバ魏ノ曹操夏日行軍ノ際士卒皆  
 渴シテ行ク能ハズ曹操馬上ニ大呼シテ曰ク彼處ニ  
 青梅アリ探テ食フ可シト時恰モ暑中ニシテ梅實ヲ  
 シ然レニ士卒皆之ヲ聞キ青酸ノ酸味ヲ思ヒ出シ咽  
 喉ニ餘唾ヲ生シ渴ヲ潤シ無事ニ行軍セリ之レ單ニ



思ヒニ生シテスラ其功アルノ適証ナリ故ニ日々心  
ニ感ズルノ密畫ヲ見亦之ヲ思維スルニ於テヤ豈  
咽喉ニ唾ヲ生ズルノ比ヒナランヤ蓋シ人心ノ物ニ  
感ズルヤ曹操ノ三軍數千万皆酸ニ遭テ酸ニ感ゼザ  
ル者ナキガ如ク智ニ遭ヘバ智ニ感シ仁ニ遭ヘバ仁  
ニ感ズ其感ズル處人皆相同シキノミ近ク鹽澤丹三  
郎ハ母ノ念佛ノ聲ヲ聞キ其態ヲ見ルト共ニ積年ノ  
惡意ヲ一朝ニ翻シ忠臣タルニ非ズヤ其念佛ノ聲ヲ  
聞キ其態ヲ見ルハ偶然ナリ此レ歡善ノ具タル佛檀  
在ル有ルヲ以テ不斗耳目ニ觸レ外形ニ現ハル、處  
ノ者遂ニ内心ニ感映シ本善ノ良心ヲ呼ビ起シ大惡

人モ化シテ善人タリ故ニ歡善育智ノ具家ニ存スル  
ハ家ノ幸福身心安寧家運隆盛ノ祈禱ナリ夫レ曹操  
ノ梅酸即智ノ事跡ヲ聞クハ智育ナリ鹽澤母子ノ行  
爲ヲ聞クハ德育ナリ德育智育ノ増進スルヲ企圖シ  
タル此新意匠ハ古今ノ英雄豪傑善行施智ノ事跡ヲ  
畫載シ交フルニ聖人君子ノ言行ヲ書シ常ニ身邊ニ  
近キ茶碗筆立等ニ掲載セシニ付子弟ノ爲ニハ扁鵲  
倉公ニ勝リ大人ト雖用藥石ノ効豈尠カラシヤ大方  
ノ諸君試ニ我新案ヲ實施シ玉ハ、誰カ其事物相應  
ノ感無ランヤ則チ第七第十七等ノ繪畫ヲ見ハ其幼  
智ヲ養成ス可シ第八第十四等ノ圖ヲ閱セバ必ズ忍



耐ノ力ヲ強フス可シ第十第十八等ノ眞影ヲ縱覽セ  
 バ誰カ忠直ノ思ヒヲ生ゼザランヤ故ニ此新意匠ハ  
 修身養智ノ一大材料ニシテ苟モ善ヲ談シ智ヲ講シ  
 勇壯ノ思ヲ生ゼシムル等ノ好談種ナリ他日必ズ實  
 功ヲ奏セラル・トナ期シテ俟ツノミ立堂敬白  
 本章ノ次第ニ付苟モ人ノ智識ヲ廣メ又ハ道德ヲ  
 高メ候様ノ事跡及ビ和歌發句等ノ類ハ新古ヲ論  
 セズ御通知ヲ乞フ自然弊堂ニ於テ掲載ノ榮ヲ得  
 候様ノ逸事ニ候ヘバ此書ノ次號々々ニ掲ゲ可申  
 其節ハ御禮トシテ器物進呈可仕候事

德育古今名譽鑑

此書ハ立堂茶碗ノ意匠  
 畫ヲ説キ明セシモノ也

第壹卷

追次發行

第一項

(仁德天皇)仁君德政之圖

人皇十七代仁德天皇浪花ノ都ニ在マス時或日高樓ニ登ラセラル万  
 民困窮ノ有様ヲ觀覽シ玉ヒ即時ニ年貢公役ヲ免サセ給ヒ御自身ハ  
 衣冠ノ弊レノ宮殿ノ破壊スルモ厭ハセラレズ三年ノ終ニ至リ又高樓  
 ニ登リ觀覽在ラセラルタルニ人民富榮ノ情大ニ現ハレケレバ御悅  
 ビ限リナシ後人天皇ノ御心ヲ察シ奉リタル歌ニ「高キヤニ登リテ見  
 レハ煙リ立ツ民ノ窟ハ賑ニケリ」ト眞ニ天皇ノ御心ハ斯ヤアリケン  
 此時天下安寧ニシテ万民大ニ御仁愛ヲ仰ギ奉リ金銀米穀ヲ貢シ日  
 ナラズ禁中ヲ造營シ漢土文王ノ靈臺ヲ經始セラレシニ勝ルト云フ

第二項

(大舜)孝感天助之圖



大舜ハ瞽瞍ト云フ人ノ子ニシテ道德高ク孝道厚ク絶倫ノ才智ト徳  
行トヲ以テ帝堯ノ用フル處トナリ後チ遂ニ天子ノ禪リヲ受ケ天下  
ニ君タリシ人ナリ其始メ未タ幼年ナリシ母ヲ失ヒ繼母ノ讒ニ因  
リ父ノ愛ヲ失ヒ嘗テ舜ノ罪ヲ拊ヘ舜ヲ殺サント思ヒ或日舜ニ命シ  
一日ニ數反ノ田ヲ限リ耕サシム舜命ヲ受ケ耕スニ臨ミ數十ノ白象  
來リ鼻ヲ以テ其田ヲ耕シ舜ノ勞ヲ助ケ父ノ命ヲ奉ゼシム父又之ニ  
草ヲ布カシム數万ノ鳥草ヲ啄ミ來リ亦其功ヲ爲サシム是レ舜孝道  
ノ厚キヲ天帝感シ玉ヒシ處ナリ萬世ノ久シキ人毎ニ之ヲ稱シテ止  
マズ之ヲ經史ニ述ベ或ハ繪畫ニ摸シ尙ホ昨日ノ思ヒアラシム至孝  
ノ徳夫レ大ヒナリト云フ可シ

第三項 (源義家) 抑損ノ功現ハル、之圖

源義家貞任ヲ討テ軍事ノ譽レ高カリシカバ大江匡房卿之ヲ斥ケテ

曰ク義家兵書ヲ知ラズ他日必ス敗北スルノ時アル可シト人之ヲ義  
家ニ告グ義家之ヲ聞キ節ヲ屈シ匡房ニ教ヲ乞フ其後チ奥州ノ武衡  
家衡ト戰フ時敵伏兵ヲ設ケ義家ヲ陷レント企ツ義家兵ヲ進ムル片  
數百ノ雁行乱テ飛ビ去ルヲ遙ニ見テ敵ノ伏兵アルヲ察シ其用意ヲ  
爲シ遂ニ戰ニ勝タリ之レ兵法ニ雁行乱ル、ハ伏兵アル也ト云フ學  
ビ知リタルヲ以テナリ曩ニ匡房ノ謗リヲ怒リ我意ヲ張リ兵法ヲ學  
バズンハ伏兵ノ災ニ陷ル可キナリ故ニ人皆驕慢ノ心ヲ去ル義家ノ  
如キヲ得バ其己ヲ益スル豈小少ナランヤ

第四項 (韓信) 大人ハ小人ト爭ハザル之圖

韓信ハ王族ノ遠裔ナリ家貧ク産業トスル處ナク飢テ食ヲ漂母ニ請  
ヒ釣シテ魚ヲ市ニ鬻グ或ル時市中ノ惡少年等韓信ヲ侮リ云フテ曰  
ク汝体格大ナリト雖モ其心ハ臆病ナリ又腰ニ劍ヲ帶スルモ何ノ用



ヲカ爲サン若シ男子ノ氣象アラバ我ヲ斬レ斬ル能ハズンバ我勝ヲ  
 クレト大勢取圍テ難題ヲ云ヒ懸タリ韓信思フニ此輩ヲ斬リ捨ル  
 一甚易シ然レ人ヲ殺セバ我亦死セザルヲ得ズ然レ其言ニ從ハ  
 ズンバ我ヲ害セン大功ハ細瑾ヲ省ミズ何ノ厭フ處アラント心ヲ決  
 シ遂ニ其勝ヲクマリ小人ト争ハズ後チ漢ニ仕ヘ楚王ノ位ニ登レリ  
 若シ曩ニ惡少年ノ無禮ヲ怒リ斬殺セバ豈楚王タルノ期有ランヤ故  
 ニ人皆能ク勘忍セザレハ大功ヲ爲ス能ハザルナリ

第五項 (羽柴秀吉) 耐忍之圖

羽柴秀吉筑前守ト稱シ中國五ヶ國ノ大守トシテ其英名天下ニ傳ヘ  
 朝日ノ登ルガ如キ勢ヒ有リシ井清洲城中ニ於テ織田ノ老臣等相會  
 ス勝家ノ所望ニ因リ勝家ヲ按摩シ佐久間等ト相争ハズ後チ勝家佐  
 久間ト共ニ秀吉ニ討滅セラル若シ秀吉曩ニ勝家ノ無禮ヲ怒リナバ

佐久間等ノ爲メニ害セラレ豈關白太閤ト稱スルノ期有ンヤ韓信ハ  
 王族ヲ以テ奴隸ノ胯下ヲ出テ秀吉ハ英才ヲ以テ同僚ヲ按摩ス其耐  
 忍スル所皆同シ

第六項 (司馬温公) 即智果斷之圖

司馬温公幼稚ノ時衆童ト遊戯ス一童過テ水缸ニ落ツ衆童驚キ之ヲ  
 其父母ニ告ン爲メ皆走り去ル温公獨リ止リ傍ニアル處ノ石ヲ以テ  
 其缸ヲ破ル水流出シ陷ル處ノ兒生命ヲ保ツヲ得タリ若シ温公ヲシ  
 テ衆童ト共ニ走テ其父母ニ告ゲシメバ父母至ルノ間陷ル處ノ兒必  
 ズ溺死スベシ温公之ヲ計リ其缸ヲ破ルノ智且ツ果斷庸兒ノ能ク爲  
 シ得ル處ナランヤ今世ノ兒童智育發達ノ緒ニ就クヲ希ヒ之ヲ摸画  
 シ平生智囊培養ノ一端ニ供フ

第七項 (上杉謙信) 幼稚ノ大志并軍智之圖



上杉謙信幼名ヲ猿松ト云フ繼母ノ讒ニ依リ父ノ愛ヲ失ヒ遠寺ニ遣  
 リ僧トセラルル時ニ猿松八才ナリ金津某ヲシテ送ラシム米山峠ニ掛  
 リ山嶺ノ辻堂ニ休息シ辨當ヲ喫セントス猿松遙ニ頸城ヲ眺メ涙ヲ  
 含テ曰ク我レ若シ志ヲ得テ軍ヲ起ス事アラバ此山ヲ本陣トシ城下  
 ヲ見下シ兵ヲ用フベシ誠ニ善キ軍地ナリ從者舌ヲ卷キ恐レケリ後  
 チ父爲景越中ニ討死シ兄三郎愚暗ニシテ國中亂レ領分追々敵ニ奪  
 ヒ取ラレケル此時猿松十七才父ノ仇ヲ報ゼン爲メ寺ヲ出デ宇佐美  
 定行ト計リ兵ヲ起シ景虎ト改稱ス嘗テ敵ヲ追テ米山峠ノ麓ニ至ル  
 景虎俄ニ眠ヲ催シ民家ニ入り臥ス宇佐美ノ徒大ニアセリ今追討セ  
 バ破竹ノ勢ナリト頻ニ呼ビ起セドモ唯高射シテ起キズ衆皆時期ヲ  
 失フヲ嘆ゼリ稍アリテ景虎ツト起キ上リ衆ニ令シテ曰ク今頃ハ敵兵  
 峠ノ三分一向へ越へタル時分ナリイザ追討スルノ時ナリト急ニ馬

ニ乘リ螺ヲ吹キ兵ヲ引テ追ヒ懸ケ龜破坂ト云フ處ニテ追付キ落シ  
 掛ニ討テ大ニ打勝タリ此レ敵ヲ上手ニ引受ケ戰フ時ハ戰ヒ難儀ナ  
 ルヲ以テ敵峠ヲ越へ下リ坂ニナリタル時坂上ヨリ討ツノ利アルヲ  
 謀リ僞リ眠リテ其時期ノ至ルヲ俟チシナリ宇佐美ノ徒後悟リテ大  
 ニ感シタリト

第八項 (李白) 勉強心ヲ起ス之圖

唐ノ李太白青雲ノ志アリ嘗テ京師ニ遊學スル數年學業成ラズ志氣  
 屈折シ學文ノ及バザルヲ嘆シ郷里ニ歸農ス然シテ亦再ビ精心ヲ鼓  
 舞シ修學スル數年嘗テ得ル處ナシ是ニ於テ學術成功ノ期ナキヲ歎  
 キ斷念シテ亦故國ニ歸農スル再三其最後ニ至リ歸途茶店ニ休息ス  
 一老婆ノ杵ノ如キ大サノ鉄ヲ磨スルアルヲ見ル李白怪ミ問テ曰ク  
 何ニカ爲スト問フ答テ曰ク磨損シテ以テ針ヲ作ルト李白驚愕シテ



思フニ我若シ此老婆ノ魂氣ヲ以テ修學セバ何ゾ學業ノ成ラザルヲ  
 患ヘンヤ我男子此老婆ニ及バザルカト是ニ於テ大ニ奮勵シ途ヲ轉  
 シ復タ京師ニ立チ戻リ勤學スル數年遂ニ學業成リ名ヲ後世ニ垂ル  
 ○李白ハ其母太白星ノ其懷ニ因ルト夢ミテ生ミタルヲ以テ太白ト  
 名付ケタル者ニ付其才凡庸ト異ル可シ然レモ尙ホ勉強ノ功ヲ積ム  
 此ノ如クナラザレバ其名ヲ爲ス能ハズ况ンヤ天稟ノ才ナキ者豈勉  
 メザル可ケンヤ

第九項 (小野道風) 天下ノ三筆トナル之原因

小野道風嘗テ書ヲ學ビ成ラズ屈志ノ餘リ筆ヲ投シ習字ノ念ヲ捨テ  
 田舎ニ遊歩ス時ニ微雨ス柳樹ノ下ニ蛙アリ柳葉ノ虫ヲ喰ハント欲  
 スルヲ見ル然レモ甚高フシテ達セズ道風思フニ蛙遂ニ其志ヲ果サ  
 ズト熟視スル暫時蛙頻リニ飛ビ亦飛ブ終ニ大ニ奮起シ其虫ヲ喰ム

道風是ニ於テ嘆シテ曰ク蛙尙ホ丹精シテ止マズ能ク其志ヲ遂グ我  
 豈ニ蛙ニ如カザルカト大ニ奮勵シテ習熟スル久シ遂ニ天下三筆ノ  
 名ヲ得タリ語ニ曰ク百里ヲ行ク者ハ九十里ニ半スト其成功ノ眞際  
 ニ至リ志ヲ屈スル者ノ爲ニ之ヲ誦ス

第十項 (晉ノ趙盾) 誠忠禍難ヲ排スル之圖

趙盾ハ晉國ノ大夫ニシテ忠臣ナリ主君靈公暴虐無道ニシテ君タル  
 ノ行ヒナシ然レモ趙盾忠ヲ盡シ度々君靈公ヲ諫メ以テ國ヲ失フニ  
 至ラザラシム靈公ハ趙盾ノ屢諫言スルヲ蒼蠅ク思ヒ趙盾ヲ殺シナ  
 ハ誰モ我事ニ妨グル者無ラントテ鉏麇ト云フ大力ノ者ニ命シテ暗  
 殺セシム鉏麇ハ夜半潛カニ趙盾ノ閨房ニ至リ見ルニ趙盾ハ今將ニ  
 出勤セントシテ官服ヲ着ケタルニ時未ダ早キニ過ギタルヲ以テ官  
 服ヲ着ケタル儘椅子ニ據リ夜ノ明ルヲ俟チうとくと眠リ居タリ鉏



麿之ヲ見テ退テ嘆シテ曰ク國家ヲ治ムルノ勤務ニ怠ラズ之レ國民ノ主ナリ暴虐虎狼ノ主ニ仕ヘ其君ヲシテ國家ヲ失ハシメザルハ忠ナリ我之ヲ殺スニ忍ビス然レモ我又君命ニ背クハ不信ナリ我寧ロ死ス可シトテ自ラ庭前ノ大樹ニ觸レテ死ス

### 第十項 (趙盾) 情ハ人ノ爲メナラサル之圖

趙盾嘗テ山狩ニ出テタルニ驕桑トテ桑林ノ中ニ休息セリ向ニ一人アリ其容貌ノ甚タ瘠タルヲ見テ其譯ヲ尋ネケレハ其人ノ曰ク今日迄食物ヲ得ズ絶食スルヲ三日ナリト趙盾憐デ之ニ食物ヲ與ヘケレバ其半分ヲ餘セシ故ヘ怪テ何故ニ食シ盡サヅルヤト問フ其人ノ曰私ハ數年ノ間他國ニ奉公セシニ付母ノ安否ヲ尋ネン爲メ奉公ヲ止メ國ニ歸ルノ途次路用ニ盡キタルヲ以テ母ニ與フルノ土産ナシ郷里已ニ近シ今賜フ處ノ此ノ美味ヲ以テ母ニ與ヘント欲ス故ニ之ヲ

餘スト趙盾亦更ニ食物ト金トヲ與ヘテ別レケリ扱テ咄シ替リテ主君靈公ハ趙盾ヲ殺サント思ヒ鉏麿ヲ遣シタレモ事成ラザルヲ以テ今ハ詮方ナク多クノ討手ヲ遣シ趙盾ヲ殺サシム趙盾ハ討手ニ追ハレ既ニ危クナリタル時一人ノ大男手ニ刀ヲ提テ討手ノ兵ニ打向ヒ勇ヲ振ヒ散々ニ撃チ腦シ多クノ討手ヲ追ヒ戻シタリ趙盾ハ不思議ノ命ヲ助カリ其勇士ニ向ヒ何方ノ御方ニ候ヤ又姓名ハ如何ニ候ヤト尋ケレバ其人ノ曰ク私ハ過ル年驕桑ノ下ニ餓死セントセシ君ノ御情ケニ因リ命ヲ助カリタル餓人靈輒ナリト言ヒ捨テ、立去リケリ立堂曰情ハ人ノ爲メナラズト信哉此言ヤ

### 第十一項 (濱田彌兵衛) 奸ヲ挫キ國威ヲ輝ス之圖

濱田彌兵衛ハ肥前長崎ノ代官末次平藏ノ下官タリ平藏ノ商船臺灣ニ於テ蘭人ノ爲メニ商品ヲ掠奪セラル平藏之ヲ憤ルト雖モ如何ス



可キ道ナシ彌兵衛之ヲ聞キ如何ニモ残念ノヲナリトテ平藏ニ向ヒ申ケルハ我ニ商船一艘ト農夫百人トヲ貸シ玉ハ必ズ此恨ヲ報ヒ且ツ掠奪セラレタル物品ヲ取戻シ君ノ憤ヲ露ス可シト平藏ノ曰ク如何ナル手立ニテ此恨ヲ報シ給フヤト彌兵衛ノ曰我ニ奇策アリ只今問玉フナ其功ヲ奏スルヲ俟チ玉ヘト云フ平藏ハ兼テ彌兵衛ノ豪膽智畧アルヲ知ルニ付其乞ニ任セ商船一艘ト農夫百人トヲ與ヘケレバ彌兵衛ハ弟小左衛門倅新造ノ兩人ニ計ヲ申含メ共ニ農夫ノ姿ニ假裝シ農具許多積込ミ臺灣指テ出帆セリ此時蘭人ハ鄭成功(芝居ニ)爲メニ臺灣ノ留守ヲ守リ居タリケルガ日本船ノ入港スルヲ見テ早クモ夫レト察シ忽チ數十艘ノ船ニ兵器鉄砲ヲ備ヘ日本船ヲ取圍ミタリ彌兵衛ハ靜ニ甲板ニ立チ出テ我等ハ先年此地ノ土人ト約セシニ付開墾ノ爲メニ來リタリ決テ惡意アル者ニ非ズト是ニ於テ

蘭人數名日本船ニ乗リ込ミ船中ヲ改メ見ルニ多クノ農具アルノミニシテ更ニ兵器様ノ物無リシ故ヘ大ニ安堵ノ思ヒヲ爲シ是ノ趣ヲ大將ゼテラルニ報シケレバゼネラル對面セントノ返答ニヨリ彌兵衛等ハ案内ニ連ラレ大將ノ前ニ至リ恐怖ノ体ニモテナシ身ヲ顛シ低頭平身シ故意ト音聲ヲ低フシ開墾ニ來ルノ由ヲ述ブ大將ゼネラルハ彌兵衛等ノ低聲畏敬ノ容態ヲ見テ少モ用心ノ体ナクシテ申ケルハ汝等ノ聲幽ナルヲ以テ聞ヘ難シ近ク來テ申述ベヨト彌兵衛ハ大將ニ近付ト共ニゼテラルニ組付タリゼテラルハ不意ノ一ニテ椅子ヨリ顛ゲ落ちタレ元ヨリ大力ノ者ナレバ惣身ノ力ヲ出シ彌兵衛ヲ取テ押付タリ此時弟小左衛門匿シ持タル刀ヲ抜キゼネラルノ手ヲ刀ノ背ニテした、かニ打タリケレバゼネラル力弛ミタルはづみニ彌兵衛身ヲ跳起シゼネラルヲ組敷馬乗ニ打跨リ懷刀ヲ取出シ



ゼネラルノ胸ニ押シ當テ身動キナサハ刺殺サン勢ヒナリ大將近侍  
 ノ蘭人等ハ之ヲ見テ劍ヲ抜キ彌兵衛ニ斬リ懸リタリシ片悴新造弟  
 小左衛門刀ヲ揮テ立塞リ暫時ノ間ニ斬伏セ尙ホ自餘ノ蘭人十數名  
 ヲ斬リ倒ス蘭人等ハ此勢ニ懼レ四方へばつと逃ケ散リタリ彌兵衛  
 ハ大將ゼネラルヲ高手小手ニ縛メ自ラ其繩ヲ取り責テ曰汝昨年我  
 商船ヲ掠奪シ日本ニ恥ヲ與ヘタリ是ノ故ニ我等汝ヲ始メ蘭人ヲ盡  
 ク刑戮ニ處センガ爲メニ來レリト雷ノ如キ大聲ニテ罵リケレバ大  
 將ゼネラル顔色土ノ如ク哀レナル聲ヲ出シ只管昨年ノ罪ヲ謝シ一  
 命ダニ助ケ玉ハハ掠奪セシ處ノ品ヲ返シ尙ホ相當ノ償ヒヲ差出サ  
 ント彌兵衛得タリト思ヒ然ラバ我船ヲ港ニ入レ汝ノ鉄砲ヲ除キ掠  
 奪シタル物品ヲ殘ラズ我船ニ積込ム可シ少モ約ニ違ハハ一刀ニ斬  
 捨ント恰モ猿廻シノ猿ヲ使フガ如ク右ノ手ニ刀ヲ振上ゲ左ノ手ニ

繩ヲ持チ追立々々海岸ニ至ルゼネラルハ餘リ強ク縛ラレタルニ付  
 命令ヲ傳フルノ間少シク繩ヲ弛メ玉ヘト乞ヒ求ムレ共彌兵衛一個  
 那承知セズゼネラル止ヲ得ズ縛ラレタル儘下官等ニ命シ奪フ處ノ  
 品ヲ山ノ如ク積出サセ兵器鉄砲ヲ取除キ日本船ヲ港ニ入レ十分ニ  
 積込マセタリ彌兵衛ノ曰ク約束ノナレバ汝ガ命ハ助クベシ然レ  
 凡此事タル我日本將軍ノ命ヲ請ルニ非レバ行ヒ難シ故ニ汝モ共ニ  
 長崎迄來ル可シトゼネラル之ヲ聞キ肝ヲ潰シ兩眼ヨリ雨ノ如ク涙  
 ヲ流シ我今長崎ニ至リナバ其内ニ鄭成功歸國シ此事ヲ聞キ玉ハハ  
 誰カ之ニ辨解スル者アラシヤ遂ニハ我妻子迄罪セラレン故ニ一子  
 アリ十二歳ナリ之ヲ人質トシ日本ニ遣シ置キ來春ヲ俟テ日本ニ渡  
 リ此罪ヲ謝シ人質ヲ連レ歸ル可シト餘義ナク志はれ入テ頼ミケレ  
 バ彌兵衛漸々ニ承知シ其子ヲ人質トシ偉功ヲ奏シ目出度ク歸朝セ



シカバ平藏ノ悦ビ大方ナラズ且ツ將軍家光公ノ御聞ニ達シ大ニ稱  
 贊シ給ヘリト翌年ゼネラル長崎ニ渡來シ前年ノ罪ヲ謝シ人質ヲ受  
 取リ歸國セリ此レヨリ蘭人等大ニ日本人ヲ懼レ我國威海外ニ輝ケ  
 リト云フ語曰虎穴ニ入ラザレバ虎子ヲ得ズト豪膽智謀ノ者ニ非ズ  
 ンバ何ツ能ク虎子ヲ得ンヤ濱田彌兵衛君ノ如キ本邦偉勳ノ大丈夫  
 ト云フ可シ

第十二項 (晉ノ魏顥) 隱徳アル者必ス陽報アル之圖

晉ノ大夫魏武子ニ愛妾アリ之ヲ愛スル最モ甚シ武子嘗テ病ム嫡子  
 魏顥ヲ呼ビ之ニ云テ曰ク我死セバ必ズ我妾某ヲ良家ニ嫁セシメヨ  
 ト魏顥ノ曰ク謹デ承知仕リ候ナリト武子ノ病ヒ重リ死期旦夕ナル  
 丹又魏顥ヲ呼ビ遺言シテ曰ク我一旦ハ妾ヲ嫁セント思ヒタレ凡我  
 黄泉ニ獨居スルノ徒然ナルニ付妾某ヲ以テ殉死セシメヨ必ズ違フ

勿レト魏顥ノ曰ク謹デ承知仕リ候ナリト日ナラズ父死タリケレバ  
 魏顥父ノ滿中院ヲ經過スルト共ニ父ノ妾某ヲ良家ニ嫁ス親戚皆曰  
 ク父妾ヲ愛スルノ餘リ殉死セシメヨト固ク遺言セシニ非ズヤ何ゾ  
 父ノ命ニ背クヤト魏顥ノ曰ク父病未ダ危篤ニ至ラザルキハ其心平  
 生ノ良心ヨリ出テタル言語ナリ又病危劇ニシテ死ニ垂ントスルニ  
 至リテハ其心錯亂シ平生ノ良心モ私情ニ蔽ハレタルモノニ付我ハ  
 父ノ本心ヨリ出テタル遺言ヲ以テ正當ノ言葉ト信ズルヲ以テ其遺  
 言ニ從フ也ト其後數年ヲ經テ晉國ト秦國トノ戰ニ於テ魏顥秦國第  
 一ノ猛將杜回ト乱軍ノ中ニ出逢フタリ杜回ノ勇猛ナル天下皆之ヲ  
 稱セシ程ナレバ魏顥ノ能ク及ブ處ニアラズ然ルニ杜回ト戰フニ臨  
 ミ一白衣ノ老人忽然トシテ杜回ノ馬服ニ現ハレ草ヲ以テ杜回ノ馬  
 蹄ヲ縛スルヲ見ル暫時ニシテ杜回ノ馬蹶テ顥倒ス魏顥スカサズ取



テ押へ多勢相集リ遂ニ杜回ヲ生得タリ人皆奇代ノ大功ト稱シ合へ  
 リ其夜魏顯心ニ杜回ヲ生取タルヲ不思議ニ思ヒツ、眠リタリ夢ニ  
 白衣ノ老人來リ云テ曰ク余ハ君ノ父ノ妾某ノ父ナリ君父ノ本心正  
 當ノ遺言ヲ用ヒ玉ヒ我娘ノ命ヲ助ケ良家ニ嫁セシメ玉フノ恩我黃  
 泉ニ在テ深ク感泣セリ因テ此恩ニ報セン爲メ今日君ノ杜回ト戦ヒ  
 玉フヲ助クト言終リテ夢サムト「玄堂曰嗚呼隱徳アル者必ズ陽報ア  
 リト豈虚ナランヤ

第十四項 (松平信綱) 苛責忠臣ヲ知ル之圖

人ノ忠孝ハ教育ノ力ニ據リ化育スル多シト雖天稟之ヲ備フル者  
 アリ松平信綱ハ幼名ヲ長四郎ト稱シ十一歳ノ頃竹千代君(三代)ノ御  
 遊ビ相手タリ或時竹千代君雀ノ巢ヲ爲セシヲ見テ長四郎ニ命シテ  
 之ヲ取ラシム長四郎覺束ナク思ヒ居タリシ丹傍ノ人ノ曰ク晝ノ内

ハ逆モ六ヶ敷カラシ夜ニ入り雀ノ寢シツマリタル時ヲ考へ屋根傳  
 ヒニそつと行キナバ取り得ラル可シト長四郎教ノ如クセシニ過テ  
 踏損シ撞ト落タリケル秀忠公此物音ニ驚キ刀ヲ取テ立チ出テ見玉  
 へバ長四郎ナリケリ怪ミ問テ曰ク汝何トテ爰ニ參リタルゾ長四郎  
 ノ曰「今日此軒端ニ雀ノ子ヲ産タルヲ見テ取り度ク思ヒシマ、晝ハ  
 雀ノ飛去リ候故ヘ日ノ暮ルヲ俟テ取りニ參リ候」ト答ケレバ秀忠公  
 其様子ヲ察シ玉ヒケレテ故意ト左アラヌ体ニテ「イヤ、其方ノ心  
 ヨリ起リタルニハ非ル可シ誰ニカ頼マレツラン有リ体ニ咄セ」ト様  
 様ニ尋ネ玉ヘドモ更ニ言葉ヲ改メテ秀忠公怒リ玉ヒ「已レ年頃ニモ  
 似氣ナキ不敵者ナリ」トテ捉ヘテ大囊ノ裏ニ押込メ置キ囊ノ口ヲ固  
 ク封シ柱ニ懸ケ「さあ有りのまゝに申さゞればいつまでも出すまじ」  
 ト仰ラレケレドモ長四郎更ニ屈スル言葉ナシ夜明テ秀忠公ハ外殿



指テ行キ玉ヒケル御臺所ハ長四郎ノ幼キ心ニテ主君ノ名ヲ藏シ自  
 ヲ其罪ヲ負ヒタルニ感シ給ヒ袋ノ口ヲ明ケ朝飯ヲ賜ヒ又囊ニ入レ  
 元ノ如ク成シ置キ給ヒケリ程ナク秀忠公奥ニ歸リ又モ長四郎ニ尋  
 ネ玉ヘドモ更ニ言葉ニ替リナシ御臺所ハ御傍ヨリ様々ニ詫ヒ給ヒ  
 ケル故ヘ秀忠公以後ヲ慎シメトテ赦サレタリ長四郎ハ其座ヲ下リ  
 行キ影遙ナル片秀忠公御臺所ニ仰ラレケルハ長四郎只今ノ心掛ニ  
 テ成人セハ竹千代ノ爲メニハ無二ノ忠臣ナリト仰ラレケルカ後果  
 シテ無双ノ忠臣賢輔ト稱セラレタリ

第十五項 (楚國ノ子發) 賢母其子ノ後難ヲ防グ之圖

楚國ノ軍大將子發王命ニ因リ秦國ヲ攻ム時ニ軍中兵糧乏シク士卒  
 ハ菽ヲ食ヒ粥ヲ飲ル大將子發ハ朝夕梁肉ニ飽ク然レドモ軍事ニ長  
 スルヲ以テ秦國ノ大軍ヲ撃チ破リ大ニ勝軍ノ功ヲ奏シテ歸國セリ

楚王大ニ其功ヲ賞シ多クノ褒美ヲ賜ヒケリ子發ハ鼻ヲ高フシ家ニ  
 歸リ其門ニ至リ見レバ子發ノ母門ヲ閉ヂ罵テ曰ク汝ハ我子ニ非ズ  
 速ニ去レ我レ汝ノ面ヲ見ルニ忍ズトテ怒リケル故ヘ子發ハ案ニ相  
 違シ其譯ヲ問フ其母ノ曰ク昔シ越王勾踐ノ吳國ト戦フ時國元ヨリ  
 陣見舞トシテ上酒數樽ヲ送り來レリ勾踐ノ曰ク此數樽ノ酒ニテハ  
 兵卒一同ニ別ツニ足ラズ我獨リ豈ニ之ヲ恣ニセンヤトテ酒樽ヲ川  
 上ニ持チ行キ口ヲ明ケ之ヲ上流ニ流シ自ラ兵卒ト共ニ川下ニ飲ミ  
 タリ如何ナル上酒ニテも川水ニ混合セシ故ヘ酒ノ味ハ更ニ無リシ  
 ナリ然レモ軍士勾踐ノ兵卒ヲ愛スルノ恩義ニ感シ戦ヒ自ラ十倍セ  
 リ今汝大將トシテ糧米乏シク兵卒ハ菽ヲ食ヒ粥ヲ飲ル汝ハ反テ美味  
 飽食ニ安ンズ此レ大將タルノ道乎汝ハ我子ニ非ズ我門ニ入ル勿レ  
 ト子發大ニ怖レ前行ノ過失ヲ謝ス楚王之ヲ聞キ使ヲシテ其母ニ説



諭セシム母止ヲ得ズ其罪ヲ許スト云フ玄堂曰子發ノ母ハ眞ニ親乎  
其子ノ功モ其道ヲ以テセザレバ賞セズ之ヲシテ懲シテ以テ後難ヲ  
未然ニ塞グ嗚呼宜哉此母ニシテ是子アリ

第十六項 (熊澤了介) 君子ノ德芝蘭ヨリ馨キ之圖

熊澤了介ハ俗稱ヲ次郎八ト云フ年若キ頃良師ヲ求メテ學バント心  
掛シカドモ之ト云フ可キ人ヲ得ザリケルガ或ル時旅行中宿屋ニテ  
同宿セシ武士ノ咄シニ我主用ニテ金子二百兩ヲ持テ旅行セシ片道  
中ニテ空尻馬ヲ雇ヒ之ニ乘リ馬ニゆづれテ眠リヲ催シ候故へ若シ  
モ金子ヲ落シテハ一大事ト存シ胴卷ヲ解キ馬ノ鞍ニ結ヒ付タリ日  
ノ暮方ニ旅宿ニ着キ馬子ニ賃錢ヲ與へ休息ノ後チ入湯セントスル  
時不斗心附キ初メテ馬ノ鞍ニ胴卷ヲ結付タルヲ思ヒ出シ肝ヲ潰  
シ今更退行トモ雲助ノ僻トシテ何レへ行キタルヤ知ル可カラズ如

何ハセント氣モそゞろニ立タリ居タリ手足ノ置キ處ナキ迄ニ心配  
セシ片下女來リテ只今一人馬子体ノ者汗ヲ流シ息ヲ切テ驅ケ來リ  
旦那様ニ御目ニ掛リ度キ旨申忝リ候ナリト申セシカバ夫レト心ハ  
飛ビ立ッ思ヒニテ驅ケ出デ見レバ今日乗タル馬子ナリ馬子ハ一個  
ノ胴卷ヲ差出シ申ケルハ先キ程御暇ヲ頂キ宅ニ歸リ鞍ヲ下サント  
セシ片此胴卷不斗目ニ懸リ候故へ如何ナル物ヤト存シ手ニ取り見  
レバ大金入ノ胴卷故へ大ニ驚キ此ハ旦那様ノ御忘物ト存シ其儘驅  
ケ來リ候ナリ改メテ受取り下サル可シト差シ出セシ故へ私ハ夢ニ  
夢見シ心地ニテ其胴卷ヲ受取り見レハ紛フ方ナキ二百兩ナリケル  
故へ此内ヨリ金十五兩ヲ取り出シ恩賞ニ與ヘントセシニ馬子ハ一  
個那承知セズ私ハ二里餘リノ道ヲ參リタレバ百廿文ノ賃錢ヲ頂キ  
タシ決シテ餘分ヲ頂カズト如何ニ説諭致シ候テモ更ニ聞入レズ候



故へ其乞ニ任セ百廿文ヲ與へ扱テ如何ナレバ身分賤シキ馬子ニシテ此ノ如キ清潔ノ志ナルヤ必ズ由緒正シキ御方ナラント尋ケレバ馬子ハ笑ヒナガラ私ハ由緒アル者ニアラズ賤シキ雲助ノ端クレナレ共私ノ郷里ニ中江先生ナルアリ村里ノ者ヲ集メ聖人ノ道ヲ講ゼラレ道ニ落タルヲ拾ハズトヤラ教ヘラレ候故エ私シ計ニ非ズ一郷里舉テ不正ノ者ナシト申シタリ誠ニ世ニハ大徳ノ君子モ有ルモノカナトノ物語リニ熊澤ハ之ヲ聞キ直ニ中江先生ノ郷里ヲ尋テ其門ニ入り修學シテ遂ニ天下ノ大儒トナレリ

第十七項

(孟嘗君) 諫言父ノ迷ヲ解ク之圖

齊ノ孟嘗君田文ハ田嬰ノ子ナリ其生母ハ田嬰ノ妾ニシテ田文ヲ誕生セシニ五月五日ノ生レナリケレバ父其妾ニ命シ此子ハ養育スルヲ勿レト命シ其儘出勤セリ妾其子ヲ殺スニ忍ビス密カニ之ヲ里子

ニ出シ養育セリ則チ孟嘗君是ナリ年十五歳ノ時妾孟嘗君ノ生母他ノ兄弟ヲ頼ミ父ニ見ヘシム父此由ヲ聞キ大ニ怒リ其妾ノ命ニ背キ竊ニ養育セシヲ責メケレバ孟嘗君傍ヨリ父田嬰ニ問フテ曰ク大人ノ兒ヲ養育セザルトノ思召ハ如何ナル譯ニ候ヤト尋ネケレバ父ノ曰ク五月五日生レノ者ハ其身丈門戸ト伴キニ及バ男ハ其父ヲ害シ女ハ其母ヲ害スト古昔ヨリ口碑ニ傳フル處ナリ我故ニ汝ヲ擧ルヲ欲セザリシナリト田文ノ曰ク夫レ人ノ此世ニ生ルハ命ヲ天ニ受ケタルモノニ候ヤ又ハ命ヲ門戸ニ受ケ候ヤ果シテ命ヲ天ニ受クル者トスレハ父君更ニ御心配ナキ事ナリ若シ亦命ヲ門戸ニ受クルトセバ其門戸ヲ高フス可シ誰カ丈餘ノ身丈ナル者有ンヤト父田嬰其理ニ伏シ父子タルヲ異ナルナシ其後程經テ田文父ノ傍ニ到リ問フテ曰子ノ子ヲ何ト申候ヤ父曰孫ナリ孫ノ子ヲ何ト申候ヤ父曰



玄孫ナリ「玄孫ノ子ヲ何ト申候ヤ」父曰「曾孫ナリ」曾孫ノ子ヲ何ト申候  
 ヤ「父曰我知ラズト孟嘗君言葉ヲ改メ父ニ向ヒ曰ク「父君ハ此國ノ王  
 ニ愛セラレ又王ノ弟ナルヲ以テ此國ノ政事ヲ執リ行ヒ給ヒ勢ヒ並  
 プ者ナク且ツ金銀山ヲ成シ御一身ノ榮華毛介ノ不足ナシ然レモ御  
 家來ノ内一人ノ賢者ナク又父君ノ御政事中他國ト戰ヒ國ヲ廣メ給  
 ヒタル功勞モナシ然ルニ父君ノ御殿ハ廣大ニシテ金銀ヲ嵌メ結構  
 云ハン方ナシ御召使ヒノ婦女ハ錦衣美食一ツモ欠点ナシ之ニ反シ  
 士分ノ者ハ短褐寒ヲ蔽フニ足ラズ飽食勞動ニ適ハズ父君ハ猶ホ金  
 銀ヲ蓄積シ餘財ヲ殖シ玉フテ御承知モナキ子孫ノ何者ニ與ヘント  
 思召サレ候ヤ」ト述ベケレバ父田嬰大ニ其理ニ感シ前行ノ過チヲ悔  
 ヒ仁政ヲ施シ士分ヲ憐ミ貧窮ヲ救ヒ人望ヲ回復セリ後チ王命ニ因  
 リ田文ヲ立テ、家督タラシム齊國之ニ因リ強大ナリト云フ

第十八項 (漢ノ揚震) 忠直之圖

漢ノ揚震ハ其友王密ノオアルヲ知リ引上ゲ用ヒシカバ王密其恩ニ  
 感シ或ル夜黄金十枚ヲ以テ揚震ニ與フ揚震ノ曰ク我レ子カ人才ナ  
 ルヲ知リ官ノ爲メニ君ヲ登用セリ賄賂ヲ望ムノ我ニ非ズト王密ノ  
 曰夜中ノ事故ヘ知ル者ナシ收納シ玉ヘト揚震ノ曰否ナ左ニ非ズ天  
 知リ神知リ我モ知リ君モ知ル何トテ知ル者ナシトセシヤト王密其  
 言ニ服シ大ニ謝スト人若シ揚震ノ廉直ニ倣ハハ幸甚

第十九項 (諸葛孔明) 廿五弦大兵ヲ走ラス之圖

漢ノ相丞諸葛孔明魏ヲ討ル兵士ノ手配リヲ定メ諸大將皆持場々々  
 ニ退散シタル其跡ニ魏ノ大將司馬仲達聞者ヲ以テ其空虚ナルヲ計  
 リ自ラ大軍ヲ引キ不意ニ攻寄タリ孔明ハ此時防グ可キ兵無キヲ以  
 テ皆色ヲ失フ孔明少シモ懼ル、色ナク城門ヲ大ニ押シ開キ掃除セ



シメ自ラ矢倉ニ登リ泰然トシテ琴ヲ彈ヲタリ仲達城下ニ至リ之ヲ見テ城門ノ開キタルノミナラズ彈ズル處ノ琴音少モ乱レズ仲達思フニ孔明ハ兼テ用心深キ性質ナルニ我大軍其不意ニ押寄せ來ラバ如何ナル大丈夫ノ孔明ト雖モ其琴音ノ亂レサル有ンヤ然ルニ今彼ガ彈ズル處ノ琴音ヲ聞クニ甚ダ安堵ノ思ヒアリ此必ズ深キ計ヲ以テ我ヲ欺キ討ツノ企ナリトテ急ニ號令ヲ傳べ飛ブガ如クニ逃ゲ去リタリ是レ孔明平生心ヲ治メ泰山ノ安キニ置クヲ以テ斯ル一大事ノ時ト雖モ蒼徨狼狽スル無ク寸刀一矢ヲ用ヒズ僅ニ廿五弦ノ糸ヲ以テ魏國隨一ノ明將ト數十万ノ大軍トヲ遁逃セシム其情ヲ矯ルノ度量非凡ノ人ニ非ズンハ能ク此ノ如クナルヲ得ンヤ

第二十項 (上杉謙信) 機敏之圖

上杉謙信武田信玄ト川中島ニ戰フ前後十二年嘗テ謙信呈兵八千ヲ

以テ川中島ヲ越へ西條山ニ陣ス信玄二万五千ノ大軍ヲ以テ川中島ニ陣シ謙信ノ歸路ヲ塞ギ兵ヲ二手ニ分ケ一手ハ西條山ヲ攻メ一手ハ其歸路ニ待伏セ以テ謙信ヲ討ント企テ先ヅ攻撃兵ノ兵糧ヲ炊カシメ續テ待伏セ軍ノ飯ヲ炊カシム謙信ハ西條山ニ在リテ信玄ノ陣ヲ眺メ居タリシガ其陣中ニ兩度煙ノ揚ルヲ見テ忽チ信玄ノ軍略ヲ察シ衆ニ令シテ曰ク信玄兵ヲ二手ニ分ケ一手ハ我西條山ヲ攻メ一手ハ我歸路ニ待伏セ以テ我ヲ討タント企ツ我何ゾ其計ニ陥ランヤ我信玄ノ兵ヲ分チ其寡兵ナルト其不意トニ出テ以テ信玄ヲ討ント直ニ兵ヲ引キ矢代ノ渡ヲ越へ信玄ノ待兵未ダ喫飯シ終ラザルニ早既ニ謙信ノ猛軍突撃セシ故へ信玄大ニ敗北シ諸住豊後守山本勘介ヲ始メ宗徒ノ大將皆此時ニ討死セリ然シテ西條山ニ向フ處ノ信玄ノ一軍ハ空シク其用ヲ爲サズ嗚呼謙信ノ機敏果斷ナル獨リ軍人ノ



ミノ摸範タランヤ

第廿一項 (郭子儀) 金言ノ重キ天下ト權衡スル之圖

郭子儀ハ唐朝ノ明臣ニシテ立德ノ孔明ニ於ケルガ如キ國家安危ノ良彌ナリ代宗皇帝ニ仕ヘ功勞ノ高キ人望ノ厚キ天下之ニ比ヌ可キ者無リケル此時皇女昇平公主ヲ郭子儀ノ三男郭曖ニ降嫁セラル伉儷ノ情深クいども睦間敷月日ヲ送リケルガ或ル時不斗シタルヨリ夫妻ノ間ニ異議ヲ生シ昇平公主ハ皇女ナルヲ以テ夫ヲ憚ルノ念薄ク郭曖ハ功臣ノ子ナルヲ以テ公主ニ誇ルノ意アリ遂ニ言葉争ヒノ末郭曖申ケルハ「唐朝ノ天下ハ我父ノ爲メニ全キヲ得」ト公主之ヲ聞キ怒リ面ニ顯ハレ直ニ駕ヲ命シ父天皇ノ許ニ至リ夫ノ言葉ヲ備サニ陳述シケリ郭子儀ハ之ヲ知ラズ公主ノ在ササルヲ怪ミ之ヲ家人ニ問ヒ始テ様子ヲ知リ驚ク「一廉ナラズ郭曖ヲ鞭ツ」ト一百直ニ

徒跣シテ天皇ノ階下ニ至リ免冠頓首肉袒シテ罪ヲ乞フ天皇左右ニ命シ郭子儀ヲ助ケ起サシメテ曰「古語ニ云ハズヤ黽ナラズ痴ナラザレバ家翁ト爲ラズ」ト家族ノ謗言ヲ一々取上ナバ一家惑乱シ迎モ家長トシテ一生ヲ送り翁ト稱セラル、有ンヤ汝ハ我股肱ナリ家人ノ言語何ゾ意ニ介スルニ足ンヤ郭曖ノ言又實ニ然リ汝必ズ意トスル勿レトテ公主ヲ戒メ歸ラシム郭子儀ハ感泣拜謝シテ退出セリ嗚呼代宗皇帝ヲシテ古語ヲ知ル勿ラシメバ親子ノ情愛ニ絆サレ郭子儀父子ヲ憎ン之ヲ憎テ用ヒズンバ唐朝ノ天下曷ゾ其安キヲ得ンヤ是ニ於テ金言ノ重キ「天下ト相權衡ス語曰」之ヲ知ル難キニ非ズ之ヲ行フ之レ難シ「下代宗皇帝ノ如キ之ヲ行フ者ト云フ可シ

第廿二項 (森蘭丸) 忠臣必ズ表裏ナキ之圖

信長或ル時森蘭丸ニ刀ヲ持タシム此時蘭丸九年尙ホ幼シ其刀鞘ノ刻



ミ數ヲ員へ居タリ信長窃ニ之ヲ物蔭ヨリ見ラレ程歴テ後チ信長何  
 心ナキ体ニテ多クノ小性ニ向ヒ汝等ノ内此刀ノ鞘ニ刻ミアル員ヲ  
 中ツル者有ハ此刀ヲ與フ可シト小性共皆押料リテ其數ヲ答フ蘭丸  
 獨リ黙シ居タリ信長ノ曰ク蘭丸ハ如何ニト尋ネ玉フニ對テ曰ク過  
 日數へ置キタル事アリ今尙覺へ居リ候トテ其數ヲ云ハズ信長其主  
 ヲ欺カザルヲ感シ刀ヲ蘭丸ニ賜フ信長常ニ蘭丸ノ才智ヲ試ミラル  
 〆ニ其才老成人モ及バズ明智光秀ガ恨アルヲ察シ潜ニ告ゲテ曰ク  
 光秀飯ヲ喰ヒナガラ深ク思慮スル体ニテ箸ヲ取落シ稍アリテ驚キ  
 タリ是レ程思ヒ入リタル事別事ニ候マシ察スルニ君ヲ恨ミ奉リ候  
 事ト存ズルニ付只今ノ内刺殺シ後患ヲ除カント信長讒言スルト邪  
 推シ其言ヲ用ヒズ遂ニ弑セラル

第廿三項 (史魚) 誠忠ハ君ヲ忘レザル之圖

子繻字ハ史魚衛國ノ賢大夫ナリ蘧伯玉ト云フ賢人有ルヲ知リ之ヲ  
 君靈公ニ申上ケレモ靈公之ヲ用ヒズ反テ小人ナル彌子瑕ト云フ者  
 ニ國政ヲ委ネ更ラニ史魚ノ諫ニ從ハズ其後史魚病アリ自ラ其死期  
 迫ルヲ知リ嫡子ヲ呼ビ寄セ遺言シテ曰ク我存生中主人靈公ノ過チ  
 ヲ救ハン爲メ賢人蘧伯玉ヲ進ムレモ我君用ヒ玉ハズ彌子瑕ノ如キ  
 小人ニ國政ヲ委ネ玉フ此レ我が君ニ盡スノ忠成ラザルナリ我死セ  
 バ我屍ヲ牖下ニ埋メヨ決テ葬送ノ禮ヲ行フ勿レト云ヒ終リテ死ス  
 其子父ノ遺言ニ從ヒ牖下ニ埋没シ史魚ノ死ヲ靈公ニ上申セリ靈公  
 ハ史魚ノ死スルヲ聞キ自ラ弔ヒノ爲メ史魚ノ家ニ至リ其葬送ノ禮  
 ナク屍ノ牖下ニ在ルヲ見テ怪テ其子ヲ呼ビ其故ヲ問フ史魚ノ子備  
 サニ父ノ遺言ヲ申述ベケレハ靈公大ニ驚キ嘆息シテ曰ク嗚呼我レ  
 過テリ史魚存生中蘧伯玉ヲ進メ彌子瑕ヲ退クルヲ以テ驟我ニ教フ



今亦身死シテ猶我ヲ忘レズ至忠ト云フ可シ我何ゾ從ハザラシヤト  
テ即時ニ遠伯玉ヲ用ヒ國政ヲ司ラシメ彌子瑕ヲ放逐シ史魚ノ屍ヲ  
廂下ヨリ出シ禮ヲ備ヘ厚ク葬送セリト如何ニ暴横ノ君ト雖凡誠忠  
ナル史魚ノ如キヲ得バ何ゾ之ニ感ゼザル有ンヤ

第廿四項 (毛利元就) 智計之圖

陶晴賢大内義隆ヲ弑シケレバ毛利元就晴賢ヲ討テ主君ノ仇ヲ報ゼ  
ント欲スレモ如何セン晴賢ハ大國ニシテ大軍ヲ擁シ元就ハ僅ニ安  
藝二郡ノミナレバ兵士晴賢ノ十分ノ一ニ過ザルヲ以テ唯時期ノ至  
ルヲ待チ居タリ晴賢モ亦元就ノ英邁ナルヲ患ヒ元就ダニ討滅シナ  
バ患ヒナシト唯元就ノミ恐レ居ケリ或ル時晴賢法師一人ヲ間者ニ  
仕立元就ノ様子ヲ探ラシム元就早クモ夫レト察シ益親シミ近附ケ  
タリ或ル時法師ニ按摩ヲ命シ四方八方ノ嚙ヲ爲シ晴賢ノ臣永井丹

後守我ニ志ヲ通ズルヲ以テ晴賢ヲ破ラン近キニ有リト語ラレケレ

バ彼法師此事ヲ晴賢ニ通知セシ故晴賢怒リ忠臣ナル永井ヲ殺シケ  
リ又元就ハ常ニ晴賢ノ大軍陸地ヨリ攻メ來リ元就ノ寡兵ヲ討ク  
トヲ患ヒ居タリシガ晴賢ノ間者ニ就キ反テ晴賢ヲ謀ラント思ヒ或  
ル夜軍評定ノ時元就ノ曰敵草津或ハ四日市等ノ陸地ヨリ攻來ラバ  
岩國ノ城主ト我ト計ヲ合セ裏切サセ一戰ニ討滅ス可シ若シ敵宮島  
ニ渡リ我枝城ヲ攻メ之ヲ足場ニシテ我城下ヲ攻メ討タバ如何シテ  
防グ可キヤト誠シヤカニ語ラレケレバ彼法師亦竊ニ之ヲ晴賢ニ告  
ゲタリ案ノ如ク晴賢宮島ニ押渡リタルヲ以テ元就大ニ悦ビ彼法師  
ヲ引出シ一刀ニ之ヲ斬リ軍神ヲ祭リ大風ヲ犯シ其不意ニ出テ遂ニ  
晴賢父子ヲ討滅シ主君ノ仇ヲ報シタリ

第廿五項 (塞翁) 吉凶禍福晝夜ノ如キ之圖



世稱ス人間萬事塞翁ガ馬ト眞ニ夫レ然リ塞翁馬アリ逃テ其行方ヲ  
 知ラズ近隣ノ人塞翁ノ馬ヲ失フヲ氣ノ毒ニ思ヒ塞翁ノ許ニ至リ一  
 同君ノ馬ヲ失フヲ以テ其愁傷ヲ察スト塞翁ハ更ニ憂フル体ナク靜  
 ニ對テ曰ク否々今馬ヲ失フト雖モ此事亦如何ナル幸福ニ化スルヤ  
 知ル可ラズト隣人等其意外ノ返答ナルヲ以テ更ニ信スル者ナシ數  
 月ヲ經テ塞翁ノ馬冀北ノ野ヨリ良馬ヲ伴ヒ歸リタリ近隣ノ人之ヲ  
 見テ亦塞翁ノ家ニ至リ祝賀シテ曰ク君ノ幸福ナル羨敷事ナリト塞  
 翁亦悦ブ色ナク答テ曰ク否々今良馬ヲ得ルト雖モ此亦如何ナル不  
 幸ニ化スルヤ知ル可ラズト隣人等ハ案外ノ返答ニ呆テ誠トスル者  
 ナシ塞翁ノ子ハ名馬ヲ得テ大ニ悦ビ鞍ヲ置キ之ニ乘リ馬ヲ試ミル  
 ニ如何ニモ稀代ノ良馬ナリケレバ寵愛スルヲ限リナク或ル時此馬  
 ニ勝リ意氣揚々得々然トシテ之ニ鞭チケレバ馬跳テ驅出シケル故

へ馬ヨリ撞ト落タリ馬丁等ハ急ニ助ケ起シ家ニ連レ歸ケルガ強ク  
 打タルト見へ腰屈ミテ伸ビズ終ニ跛ト成レリ近隣ノ人此体ヲ見テ  
 塞翁ノ言ヲ信シ亦翁ノ許ニ至リ君ノ仰ノ如ク良馬來ルノ幸福無リ  
 セバ御子息モ跛トナルノ不幸無リシモノヲ誠ニ御氣ノ毒千萬ナリ  
 ト塞翁又憂フル色ナク徐ニ答テ曰ク否々此事亦如何ナル幸福ニ化  
 スルヤ知ル可ラズト隣人等ハ跛トナリ何ノ幸福カ來ランヤト私ニ  
 塞翁ヲ嘲リケル其翌年ニ至リ北狄人軍ヲ以テ邊塞ニ攻來ルノ沙  
 汰聞ヘケレバ處ノ大守大ニ驚キ早馬ヲ打テ京師ニ此趣ヲ告ゲシカ  
 ドモ事急ナルヲ以テ士農工商ノ別ナク所ノ人民ヲ軍人ニ編籍シ男  
 子十五才以上五十才以下ノ者ハ悉ク出テ防戦ノ用意ヲ爲シタリケ  
 ルガ塞翁ノ子ハ跛ナルヲ以テ軍籍ヲ免レタリ程ナク北狄人攻來リ  
 ケル故へ一同防戦セシカニ衆寡敵セズ一人ヲ餘サズ盡殺セラレ後



チ官軍ノ援兵來リ北狄人ヲ追討シ遠ク追ヒ退ケタリ然レモ壯丁ノ男子ハ皆戰死シケル故何レノ家モ老人ト寡婦トノミニシテ家名ヲ相續ス可キ繼嗣斷絶セシニ獨リ塞翁ハ跛ナガラモ嫡子アリテ家名ヲ相續シ追々子孫繁殖シ一家舉テ快樂ノ榮ヲ受タリト云フ

第二十六項 (景虎)果斷之圖

景虎十八歳ノ時越後ヲ切り從ヘ自ラ高野山ニ出奔セント書ヲ遺シテ去ル家臣等之ヲ知リ相謀テ曰ク兄君タル三郎君ハ暗弱ナリ景虎君ハ弟ナレモ此人ニ非レハ此國ヲ保ツ能ハズトテ大勢ニテ追懸ケ關山ニ至リ追附キ強テ歸國ヲ乞フ景虎ノ曰ク我年若ク威權重カラズ老臣等我ヲ輕ンズ之レ國ノ本立タザルナリ本立ザレバ國弱シ之レ我が去ル以所ナリ皆曰ク固ヨリ君ト仰ギ奉ル何ソ君ヲ輕シ命ニ背ク事有ンヤ景虎曰ク然ラハ我命ニ背カザルノ神文ヲ認ム可シト

皆其言ノ如クス因テ直ニ歸城シ兄三郎ヲ隱居セシメ老臣ノ中ニ心アル者ト考フル十六人ニ切服ヲ命シ政ヲ正シ後チ越中ニ入り父ノ仇ヲ報シ武威ヲ海内ニ輝ス○景虎老臣等ノ二心アルト考フルモ其罪未ダ現ハレズ然ルニ死ヲ命スル十六人ノ多キニ至ル殘忍ニ近シト雖モ其改革ノ果斷ナル凡庸ノ爲シ得ル處ナランヤ眞ニ大丈夫ト云フ可シ

第二十七項 (大石良雄)國土ノ恩ヲ思フ之圖

大石良雄赤穂城ヲ明渡シ兼テ交リ厚キ菩提寺ニ至リ別ヲ告グ和尚白張ノ屏風ヲ出シ之ニ揮毫ヲ乞フ良雄筆ヲ取り画及ヒ和歌ヲ認ム和尚獨リ領テ之ヲ秘藏ス後チ大石等志ヲ遂ルニ及始テ世人ノ觀覽ヲ許シ今尙ホ寶藏スト云フ

古今名譽鑑第壹卷終



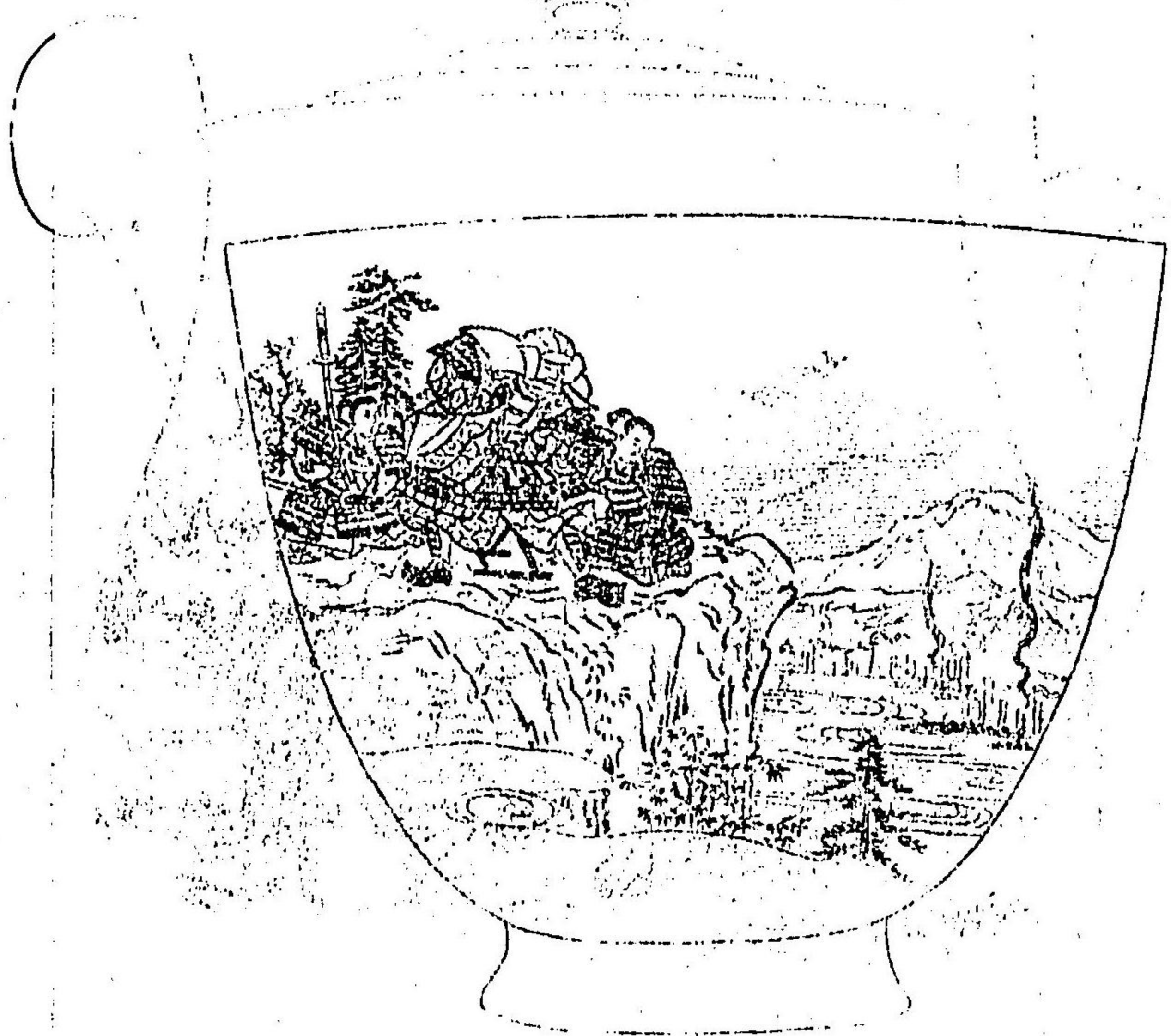
現品注文御心得左ノ通り

一此書ハ弊堂ノ意匠賛成ノ御方ニ限リ無料ニテ進呈可致筈ニ付同  
 感ノ諸君ハ兼テ御通知相成リ置キ成サレ候ヘハ出版ノ都度一部  
 ツ、遞送可致候且ツ、現品モ容易ニ出來致シ候モノニ無之ニ付非  
 常御急キノ儀ハ前以テ御斷リ申置候猶別紙圖面ノ外形容ノ異ナ  
 ル品及ビ「コーヒ」茶碗蒸茶碗水指シ湯冷シ等ハ次號ニ其形容ヲ画  
 載ス可シ

現品代價左ノ通り

一 第一番形煎茶々碗	上	等	一個ニ付	金六錢五厘
一同	下	等	同	金五錢
一 第二番形キウス	上	等	同	金二十錢
一同	下	等	同	金十五錢

器茶煎番臺





スウキ番貳第



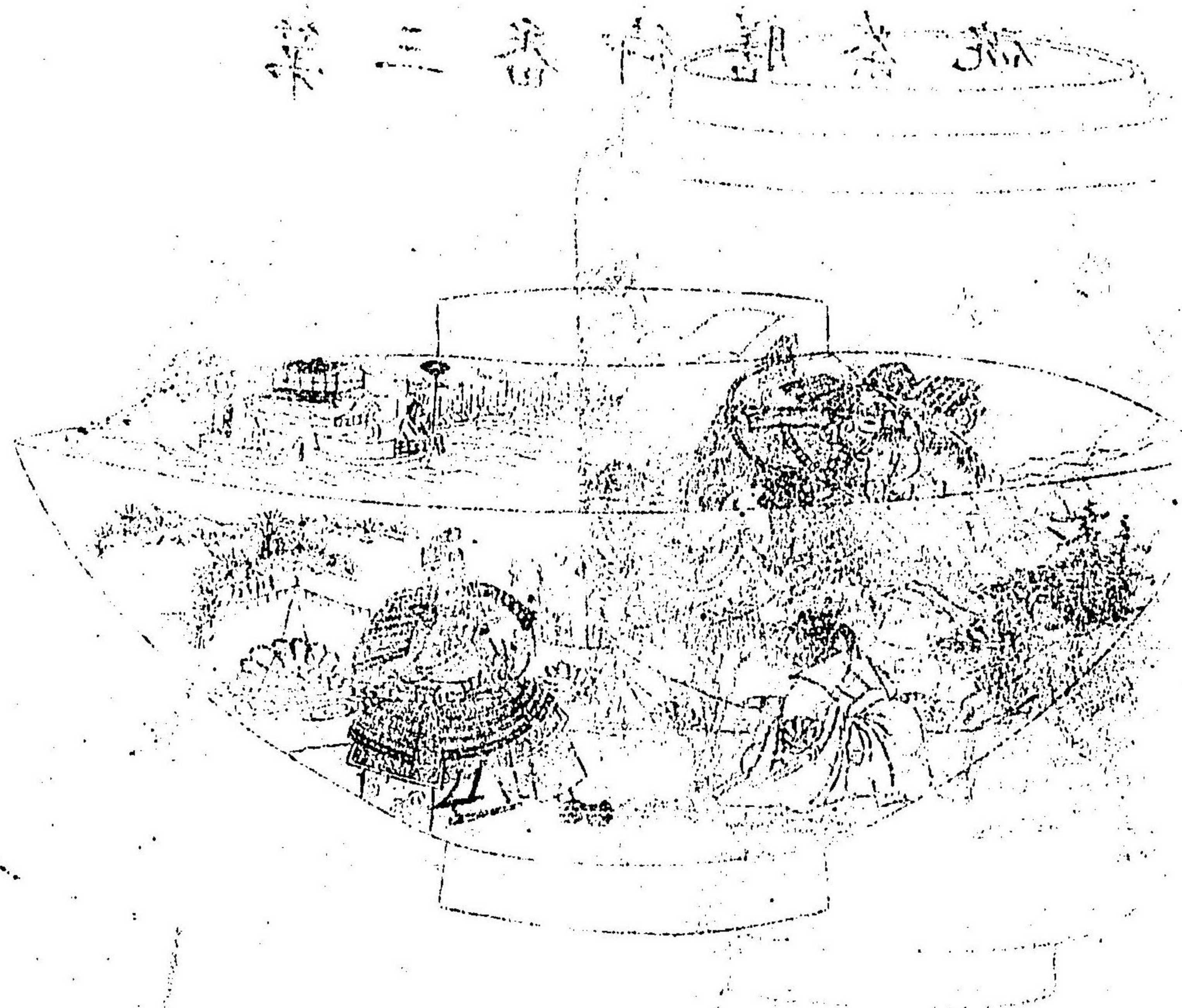
器茶煎番壹第



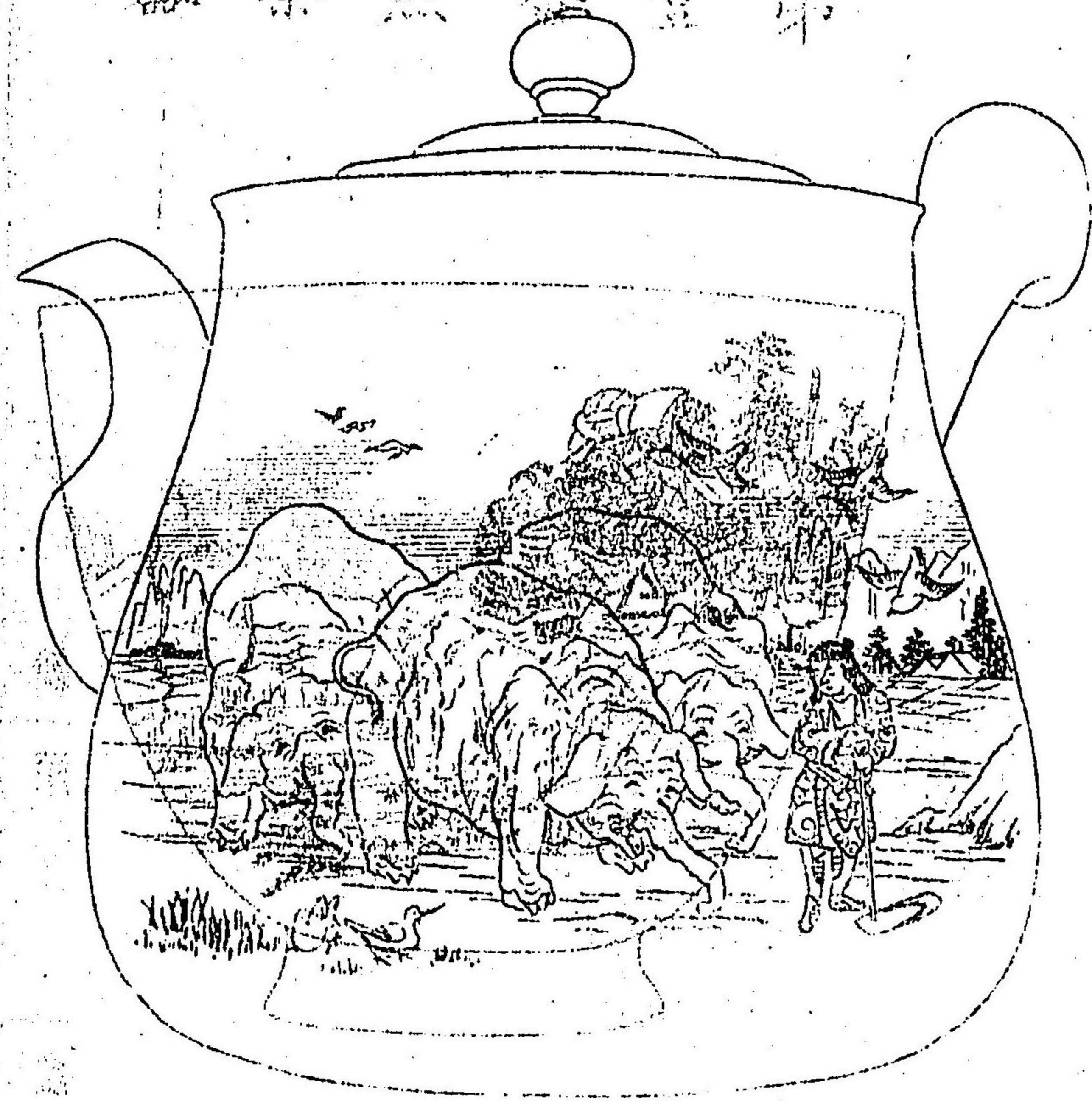


四番湯飲茶

樂三番



入西木番履樂  
第一臺參煎茶器

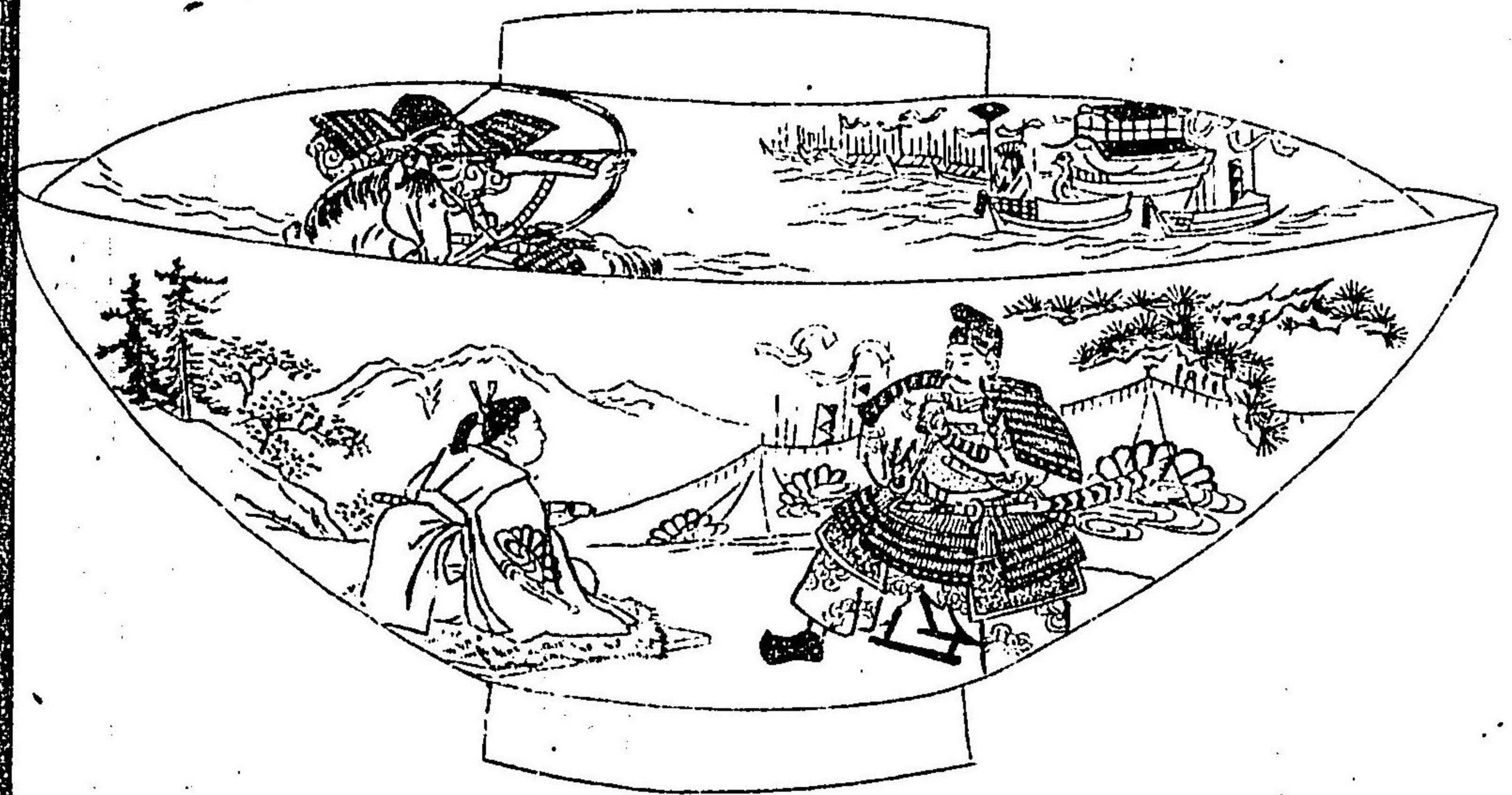




第四番湯飲茶碗



第三番御膳茶碗



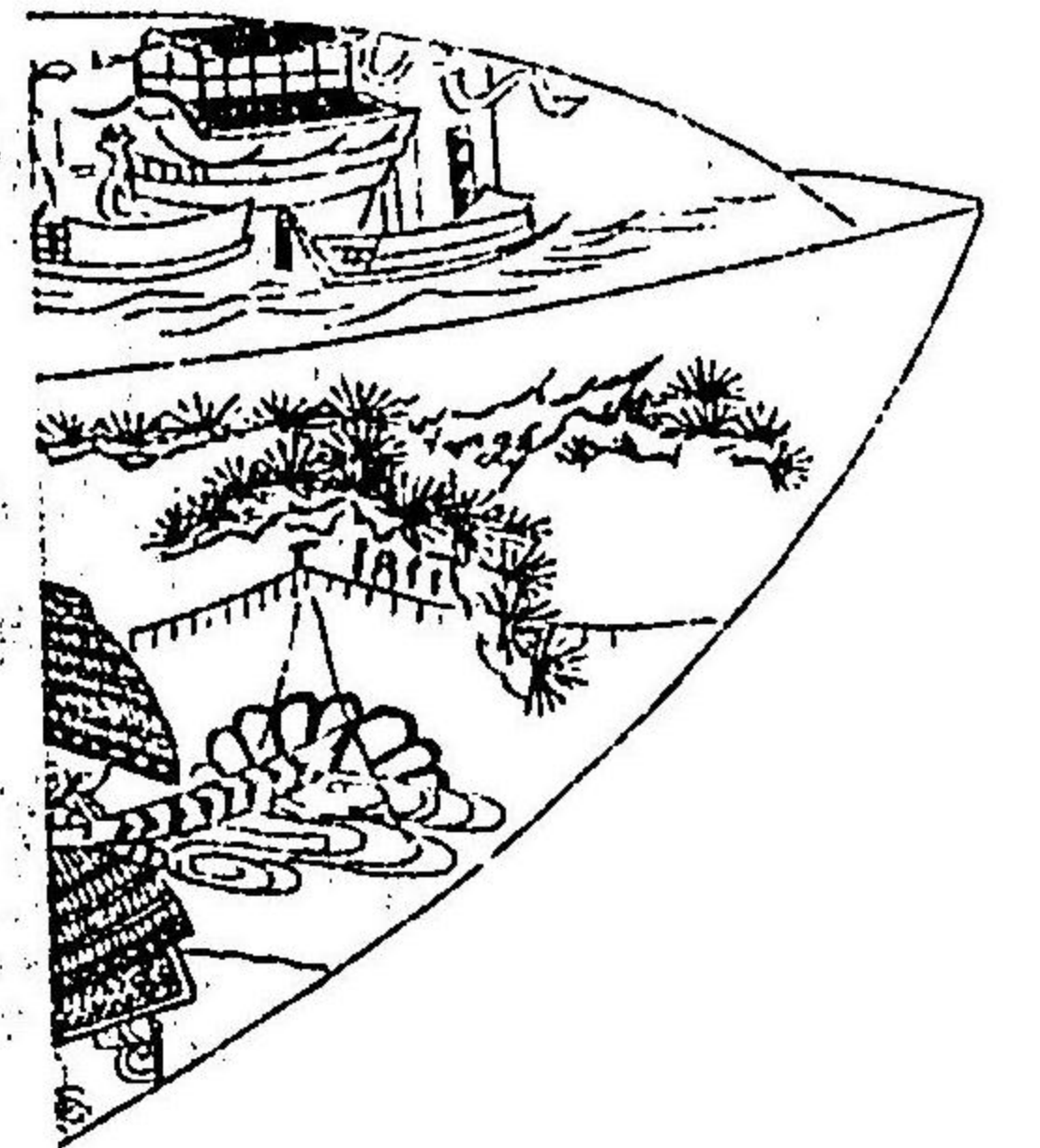


一現品送達方ハ小包郵便ヲ以テ差出シ候ヘハ速ニ相達候ノミナラ

一同	一同	一同	一同	一同	一第四番形湯飲茶碗	一同	一同	一同	一第三番形御膳茶碗
同 下等	大形上等	同 下等	中形上等	同 下等	小形上等	同 下等	大形上等	同 下等	小形上等
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
金十二錢	金十五錢	金八錢	金十錢	金六錢	金七錢	金十五錢	金二十錢	金十錢	金十五錢

一 第三番形御膳茶碗

三 第



画ナ非部同



ス費用モ他ノ便ト大差ナキニ付別途ノ良法御案内無之方ハ此便  
ヲ以テ送致仕リ度尤東京ヨリ御地迄ノ里數ハ何レモ御承知ノ事  
ニ付左ニ記スル運賃ト現品代價ト共ニ御差送ヲ乞フ其小包郵便  
ノ費目ハ左ノ通

一 第一番形煎茶々碗 拾二個箱入荷造 但シ五個モ十個モ十二個モ同一ノ運賃ニ付  
十二個ヲ以テ一ケノ荷トス此目方四百目迄

此運賃東京ヨリ各地小包郵便扱所アル地方ニ至ルノ賃額左ノ通

○東京ヨリ二十里迄ハ 金八錢 ○東京ヨリ百五十里迄ハ 金十九錢

○同 四十里迄ハ 金十錢 ○同 二百里迄ハ 金廿二錢

○同 六十里迄ハ 金十二錢 ○同 二百五十里迄ハ 金廿五錢

○同 八十里迄ハ 金十四錢 ○同 三百里迄ハ 金廿八錢

○同 百 里迄ハ 金十六錢 ○同 三百里以上ハ 金卅二錢

一 第二番キウス 三個箱入荷造リ 但シ一個モ二個モ三個モ同一ノ運賃ニ付  
三個ヲ以テ一ケノ荷トス此目方二百目迄

此運賃東京ヨリ各地小包郵便扱所アル地方ニ至ルノ賃額左ノ通

○東京ヨリ二十里迄ハ 金六錢 ○東京ヨリ百五十里迄ハ 金十二錢

○同 四十里迄ハ 金七錢 ○同 二百里迄ハ 金十四錢

○同 六十里迄ハ 金八錢 ○同 二百五十里迄ハ 金十六錢

○同 八十里迄ハ 金九錢 ○同 三百里迄ハ 金十八錢

○同 百 里迄ハ 金十錢 ○同 三百里以上ハ 金廿一錢

一 第三番形御膳茶碗小形 五個箱入荷造リ 一個モ二個モ同一ノ運賃ニ付五個  
ヲ以テ一ケノ荷トス此目方二百目

此運賃第二番キウスト同シ

一 同 大形 三個箱入荷造リ 一個モ三個モ同一ノ運賃ニ付三個  
ヲ以テ一ケノ荷トス此目方二百目

此運賃第二番キウスト同シ

一 第四番形湯飲茶碗大中小三個箱入荷造リ

此運賃ハ第二番キウスト同シト雖モ此分ニ限り目方輕ク候故ヘ



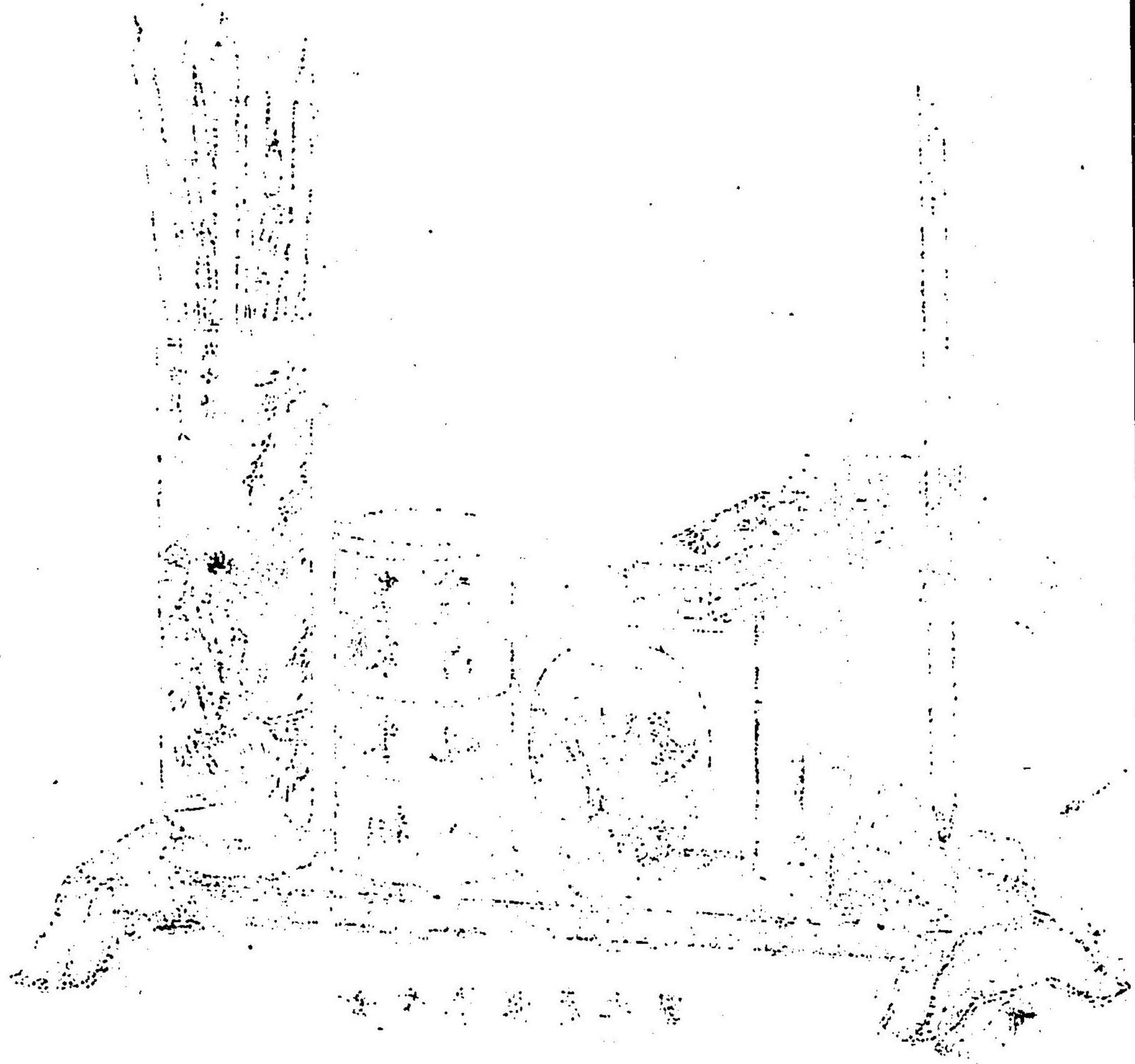
煎茶三個歟キウス一個ヲ加ルモ別段運賃ニ替リ無之徒ラニ輕量ノ物ヲ送ルモ無益ニ付注文ノ節御考ヲ要ス

●前記ノ陶器畫ハ見本圖面ノ風畫ナレモ下文ニ述ルハ當時繪畫ニ於テ其名天下ニ匿レナキ瀧和亭先生松本楓湖先生佐竹永湖先生野口小蘗先生端館紫川先生等ヲ始メ諸先生今般弊堂ノ意匠國家教育ノ奇案斬新ノ美事ト稱セラレ開業ヲ祝スル爲メ意匠匠画ノ揮毫ヲ承知致サレタルニ付各先生方ノ落款朱印ヲ施シ之ヲ陶器(煎茶器湯飲茶碗非加碗等)ニ燒附ケ候故へ未曾有ノ珍器嚙矢ノ逸物ト奉存候間御望ノ方ハ前以テ御申込置キヲ乞フ其代價ノ如キハ豫メ報導致シ兼候ニ付御照會ノ上御答可申候也

東京淺草區左衛門町

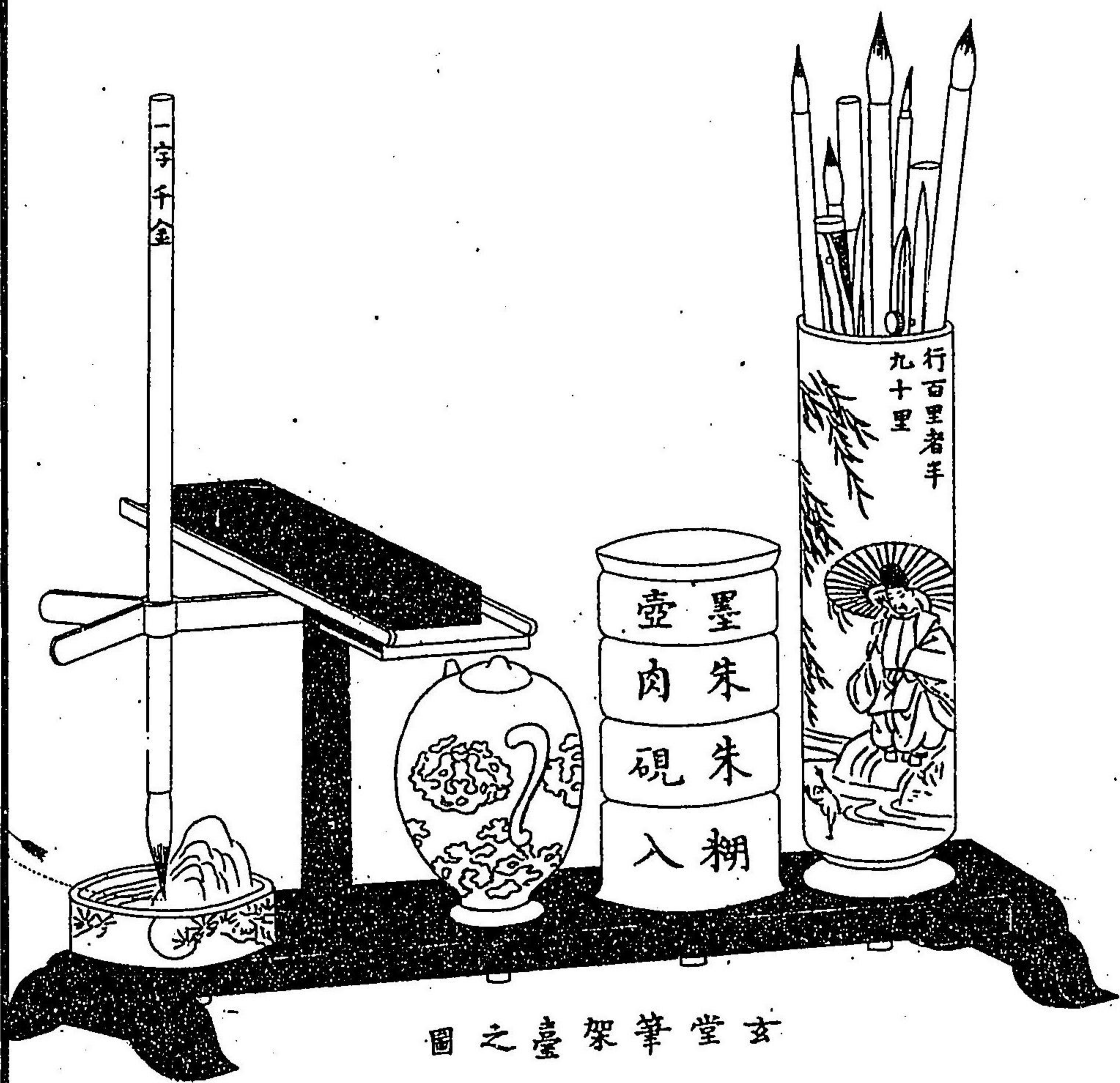
明治廿七年三月

立 堂 敬 白





定價金壹圓



玄堂筆架臺之圖

### 玄堂筆架ノ廣告及功用使用法

此玄堂筆架ハ不肖數年ノ經驗ニ因リ發明セシ筆架ニシテ今般專賣  
 特許ヲ出願シ置キ本月ヲ以テ發賣ヲ初メ候ニ付其功用使用法ヲ記  
 載シ諸君ニ報スルコト、ハナリヌ扱其功用ノ大畧ハ圖面ニテ其大  
 要ヲ知リ得ベシト雖也獨リ筆架ノミノ功用ニアラス机上必用ノ具  
 筆立水入、糊入、墨壺、朱肉、朱硯、墨壺、朱墨等ニ筆架ヲ加ヘ都合九種ノ要  
 具ヲ聚集羅列シ使用具等各其整理ヲ得セシメ雅俗男女ノ別ナク一  
 字ヲ書キ一机ニ因ル者ハ必ス欠ク可ラサル要具ニシテ其功用ノ尤  
 妙ト稱ス可キハ筆架ノ大小ニ論ナク筆ノ架上ニ直立シ其筆ヲ握ル  
 ノ場所ヲ明ケタルハ恰モ他人ノ我ニ筆ヲ捧ケタルガ如キ有様ナル  
 ヲ以テ執筆スルニ自在ナリ又置筆ノ時モ筆ヲ握リシ儘筆架口ニ筆  
 ヲ突キ入ル、斗リナレハ彼ノ筆ヲ机上ニ抛チ或ハ耳ニ狹ム等ヨリ



モ遙ニ容易ナリ又置筆ノ時ト雖凡筆ノ穂先キ常ニ適宜ノ水潤ヲ帶  
 ヒ夏日炎暑ノ時モ猶筆端乾燥スルノ患ヒナク彼ノ筆ヲ嚙ミ或ハ硯  
 上ニ磨擦シ筆毛ヲ研損スルノ弊害ナキヲ以テ筆モ自ラ三倍餘ノ壽  
 命ヲ保チ候故ヘ拾錢ニ購フ處ノ筆モ三分ノ一則三錢ニテ買得セシ  
 ト同一ニシテ經濟ト云ヒ便利ト云ヒ体裁ト云ヒ實ニ立堂筆架ノ名  
 ヲ辱シメサル逸物ニ付諸君ト其便其利ヲ同フセントテ希フ扱此筆  
 架ヲ使用スルノ方法ハ圖中ノ真綿ヲ水ニ浸シ水盤ノ内ニ入レ夫レ  
 ニ水ヲ浸シ置クナリ以後ハ日數ノ經過スルニ隨ヒ水分子蒸發スル  
 ニ應シ只水ヲ水盤中ニ投入スルノミ而テ筆ノ穂先ヲ點線圖ノ如ク  
 シテ筆ノ出シ入レヲ爲ス可シ決テ筆ヲ上ニ引キ扱ク可キニ非ス其  
 架上ノ筆ヲ使用セント欲スルキハ筆ヲ握リ筆ノ穂先ノ方ヲ符合矢  
 ノ向フ通りニ横ニ引出シ又筆ヲ架スルモ同様ノ位置ニテ筆ヲ突キ

入ル、時ハ誠ニ容易ニ執筆置筆ヲ爲シ得可シ抑此筆架ヲ案出セシ  
 譯ハ不肖立堂常ニ文書認メノ際時ヲ移スニ從ヒ暫時休憩ノ間忽チ  
 筆端乾燥シ屢筆ヲ硯上ニ磨シ或ハ嚙ミ筆毛ノ損傷スルノミナラス  
 固結ノ筆毛容易ニ溶解セス且ツ筆ヲ執リ筆ヲ置クノ迂濶ナルニ感  
 シ猶机上ノ要具備ハラサルカ爲メ大聲奴婢ヲ呼ヒ糊ヲ命シ水ヲ齋  
 サシメ拍手妻努ヲシテ朱肉等ノ紛失ヲ搜索セシムル等一家ノ混雜  
 尠カラス夫レ机上ノ要具備ハラサレバ事ヲ爲スノ便ヲ得ス亦之ヲ  
 シテ悉ク備具セシメバ硯、筆立、筆架、墨臺、朱肉、朱硯、筆洗等ヲ始メ時計、  
 呼鈴、錐、小刀、鋏、毛拔、ヘラ、七、ペン軸、等ノ類机上ニ狼籍シ恰モ道具屋ノ  
 店ヲ搔キ廻シタルカ如シ朝夕ノ掃除ニモ多數ノ物品ヲ持運ヒ或ハ  
 顛覆シテ机上ヲ汚垢シ或ハ過テ破損ス又其錯雜ヲ厭ヒ掃除ヲ怠レ  
 ハ塵埃爲メニ堆ク實ニ机上ノ整理易カラス是ニ於テ考案ヲ下シ考



一考遂ニ一種ノ發明ヲ來シ試用スル茲ニ年アリ眞ニ机上ノ要具ヲ網羅シ盡シテ其便利且ツ簡易加フルニ各物ノ位置整列シ体裁ノ優美閑雅ナル嗚呼妙ト絶叫スルノ外他ナシ其實験此ノ如ク毫釐ノ差アルナシ諸君幸ニ試用シ給ヒ我言ノ切實ナルニ感シ玉ハッ請フ感狀ヲ賜ハンコトヲ呵々

但シ此筆架臺中ノ筆立ニハ瀧和亭先生揮毫道風ノ圖ヲ掲ク

### ○立堂本業陶製標札之廣告

夫レ標札ハ只文字ヲ掲ケ我符牒ヲ示スノミノ具ナリト雖トモ苟モ自己ノ姓名ヲ掲クルモノナレハ則チ自己ノ代表者ニシテ固ヨリ清潔美麗ナラシメサル可ラス然ルニ古昔ヨリ一般ノ習慣トシテ木札ニ姓氏ヲ記載スルノ外ニ道ナカリシナリ夫レ木質ハ歲月ト共ニ古ヒ雨露垢塵ノ爲メ數月間ニ汚朽シ遂ニ姓氏モ消滅シテ辨スル能ハ

ス年々歳々之ヲ新製スルモ尙ホ其清潔ヲ保チ難ク自己ノ代表者ハ常ニ衰朽ノ觀ヲ現ハシ爲メニ訪問者ノ近隣ニ來ルモ甲ニ問ヒ乙ニ尋ネ辛フシテ之ヲ得ルト雖モ彷徨ノ間多少ノ時間ヲ費シ且其姓名人ノ知覺ニ感染スル少ク業務上爲ニ幾分ノ繁榮ヲ妨ケ郵便電信等モ爲ニ配達ヲ遅延シ標札文字ノ判然セサル爲メ自他ノ不便不幸尠カラス弊堂茲ニ感スルアリテ舊來此ノ弊風ヲ一掃シ以上述フルカ如キ患ヒ無キヲ欲シ之ヲ陶製ニシ試験セシ處良結果ヲ得候ノミナラス價額モ廉直ニシテ此標札ヲ用フルルハ終身再製ノ費ヘナク彼ノ木札ノ如ク數月間ニ古色ヲ呈シ姓氏湮滅スルノ不祥ナク終始美麗ニシテ昏暮夜間ト雖モ實ニ僅少ノ光力ヲ以テ其姓氏ヲ判然シ又轉居ノ節ハ鍵(標札每個ニ附屬ス)ヲ以テ容易ニ取外シ得ルノ便アリ依テ公衆ト共ニ其便ヲ同フセンコトヲ希フ且ツ此標札ハ自己一代ニ一度製ス



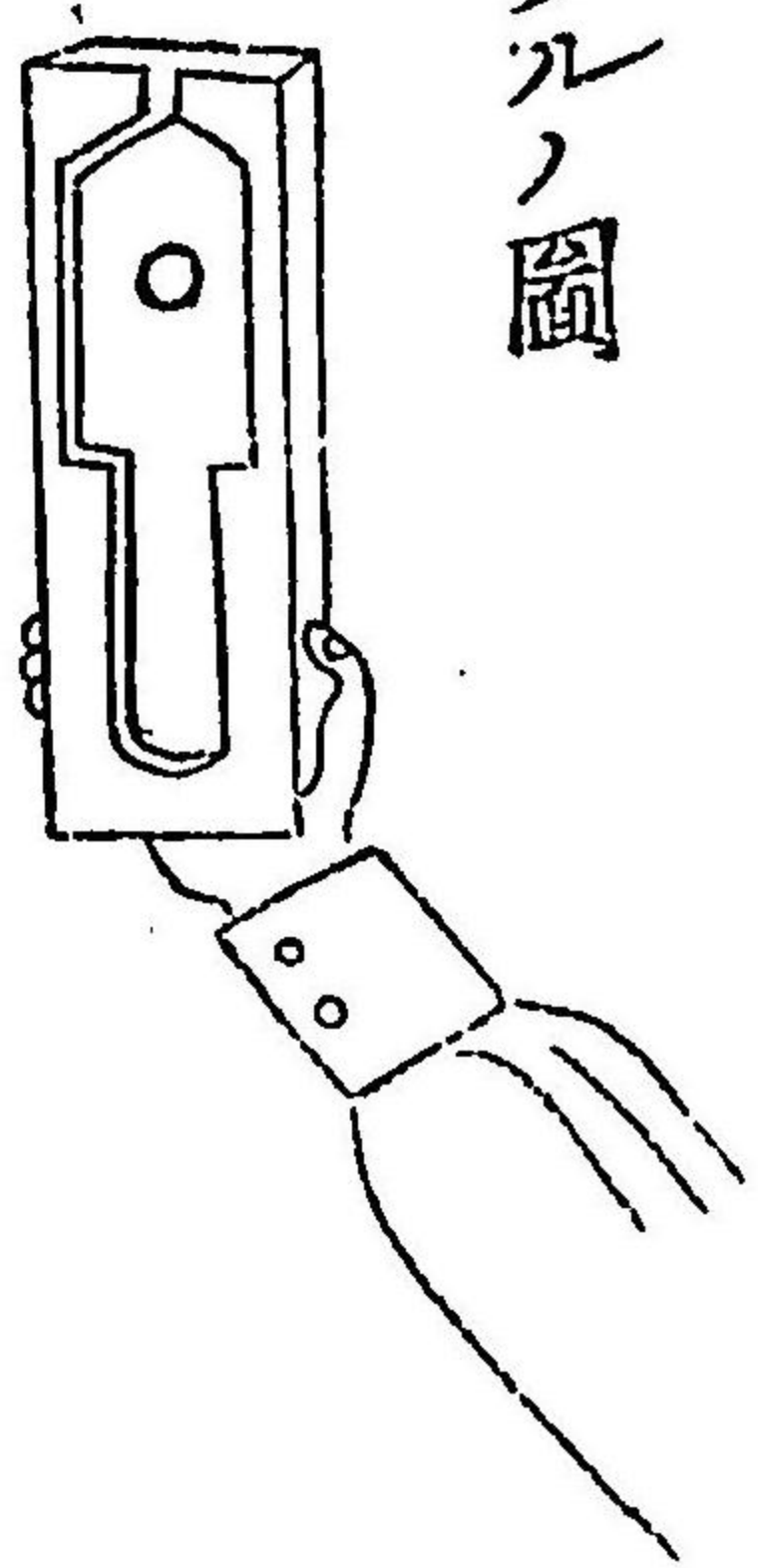
レハ終身再製ヲ要セサル物ニ付原質製造モ十分注意シ職工モ名技ニ任シ揮毫モ名家ニ托シ衆智ヲ集メテ後來ニ遺憾ナキヲ欲ス依テ  
 ○成瀬大域先生○市河万庵先生○盤鴻三宅敬造先生ヲ始メ諸大家ト特約ヲ結ヒ候ニ付書風モ楷行草隸等ノ書体御望ニ任セ出來可致候也

一標札ノ文字ハ白生地ノ陶器ニ黒ノ陶土ノ如キ物ヲ細末ニシテ之ヲ溶キ筆ヲ以テ書キ認メテ後チ燒附タル物故ヘ百年ノ久シキヲ歷ルト雖モ少モ落チ消ユル事ナシ又汚レルト云フ患ヒ更ニナク終身用ヒテ盡ル事ナシ

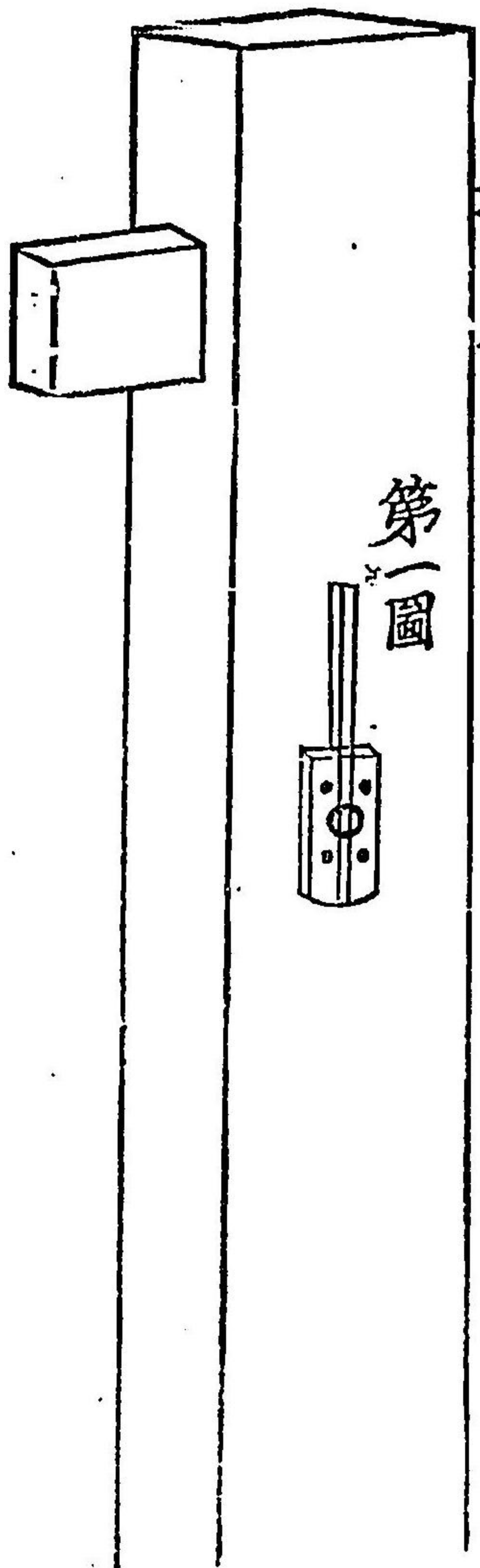
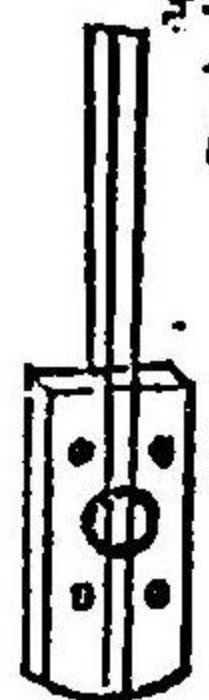
一此標札ハ表面及ヒ四方共一ツノ釘頭ヲ現スナクシテ堅固ニ取着ケ取外シ得ヘシ其仕方ハ標札裏面ニアル仲眞ヲ螺旋ニテ第一圖ノ如ク門柱ナリ又ハ思フ處ニ取り付ケ標札符合ノ○○ヲ嵌入シ

突キ上ケテ栓ヲ仲眞ノ棒二本ノ間ニ差シ込ムナリ又取リ外スニハ標札附屬ノ鍵ヲ以テ栓ノ穴ニ差シ込ミ上ニ引拔キ標札ヲ引キ下ケテ取リ外スナリ

標札ヲ取着クルノ圖



第一圖





一玄堂製陶製標札ノ冥像 夫レ陶製標札ノ數十百年ヲ亘リ無限ノ壽命ヲ保ツハ闇ニ其人ノ長壽ヲ希フニ像ル者也●其標札ノ玄白著明ナルハ其人ノ美質ヲ表章スルニ像ル●其垢染ズシテ能ク寒暑雨露ニ堪ヘ凜然タルハ其人ノ無病壯健ナルニ像ル●其衆人ノ眼目ニ觸レ易ク夜間ト雖モ能ク人ノ瞳子ヲ照スハ其人ノ智能ク人目ヲ驚カスニ像ル●其白玉無染ノ美質ヲ以テ垢汚ノ木札ニ代ルハ其人ノ姓氏蟬脫貴重ニシテ能ク人ノ知覺ニ感染シ營業上著シキ繁榮ヲ來スニ像ル●其終身改造ノ費ヘナキハ其人ノ資産再ヒ消費セサルニ像ル●其廉價ニシテ購ヒ易キハ其人ノ福徳ヲ得ルノ易キニ像ル者也以上述ルカ如キ七徳ノ瑞像ヲ冥々ノ中ニ含有スルノ標札ヲ製造販賣仕候ニ付府下ハ勿論百千万里ノ遠キモ御足勞ヲ厭ハセラレス流車ニ蒸汽ニ電信ニ電話ニ或ハ馬車ニ人力車ニ速ニ御注文被下候ヘバ諸君ノ賢明ナルニ加ヘ七徳ノ瑞像御輸入相成リ嘉祥門ニ滿チ瑞氣屋ニ普ク無限ノ幸福無邊ノ榮達ヲ得玉フ一更ニ疑ヲ容レサル處ナリト云フ阿々保証ハ御免

○特許 陶製標札定價表

農商務省特許第一五八一號

第一號	巾一吋九分	下等	定價	金貳拾錢
同		上等	同	金貳拾五錢
同		特別上等	同	金三拾錢
同		石摺形	同	金三拾錢
同		緣繪	同	金三拾錢
第二號	巾二吋七分	下等	同	金貳拾五錢
同		上等	同	金三拾錢
同		特別上等	同	金三拾五錢
同		石摺形	同	金三拾八錢
同		緣繪	同	金四拾錢

○家印附ハ一個ニ付定價ノ外金五錢ヲ増ス  
 ○成瀬大城先生ノ揮毫ハ定價ノ外金十錢増  
 ○我日本モ早晚外國人ト雜居相成候哉ノ説モ有之候ニ付其時ノ用意ト存シ標札ノ上部ニ歐文ヲ書載シ置ク片ハ他日雜居ノ爲メ標札ヲ改造スルノ



第三號	中 七寸一分 下 二寸八分	下等	同	金四拾錢
同		上等	同	金五拾錢
同		特別上等	同	金五拾五錢
同		石摺形	同	金六拾錢
同		縁繪	同	金六拾錢
第四號	中 八寸五分 下 三寸二分	下等	同	金八拾錢
同		上等	同	金壹圓
同		特別上等	同	金壹圓貳拾錢
同		石摺形	同	金壹圓卅五錢
同		縁繪	同	金壹圓卅五錢
第五號	中 九寸七分 下 三寸三分	下等	同	金壹圓五拾錢
同		上等	同	金貳圓

費へ無キヲ欲シ爰ニ  
 歐文書載ノ定價ヲ定  
 ムル左ノ如シ  
 ○歐文ハ一姓名ニ付金  
 拾錢一姓名以上他ノ  
 業名等ヲ記入スル分  
 ハ一字ニ付金一錢ツ  
 ツヲ増シ其書体見本  
 ヲ左ニ掲ク  
**YAMADA.**  
 右書体ノ外異様ノ歐  
 文及文字ノ大小等ハ

同	石摺形	同	金貳圓貳拾錢
同	縁繪	同	金貳圓貳拾錢

各地取次所ニ差出シ  
 有之候見本ニ因リ御

撰定ヲ乞フ其代價ハ文字ノ大小書体ニ因リ一ナラズ  
 ○各地御注文ノ節ハ定價表ノ寸法ニ依リ大小格好御撰定且ツ書体  
 モ御取極ノ上通知相成候へハ小包郵便ヲ以テ送達可致候代價ハ  
 左ノ運送費ト共ニ御注文ノ際御差送ヲ乞フ  
 但小包郵便賃ハ小包郵便表ニ就キ御一覽ヲ乞フ  
 ○標札第一号 百卅五匁 ○標札第二号 二百 匁  
 ○標札第三号 三百 匁 ○標札第四号 三百五拾匁  
 ○標札第五号 四百五拾匁 以上ハ箱入繩荷造悉皆込ノ惣目方也  
 小包郵便ハ壹ケノ荷物目方左ノ通りニ付御注文ノ節ハ數名様分取  
 合セ御申越相成候へハ運送費ヲ減シ可申候例へハ一号ト五号ト合



スレハ六百目トナリ候故へ一号ノ一個ハ無料ノ運賃ニテ相達シ候  
又三号ハ二個ニテ六百匁四号二個ト三号一個ト合スレハ一貫目ト  
ナリ四号五号ノ二個合スレバ八百目一号二号三号四号ノ四個ヲ合  
スレハ一貫目トナルノ類ナリ故ニ二名三名四名ト合併シテ御注文  
成サレ候へハ廉價ノ運賃ニ相成リ申候ナリ

一郵便小包ハ一ケノ荷物七種ニシテ其目方定限左ノ通り

- 二百目迄
- 四百目迄
- 六百目迄
- 八百目迄
- 一貫目迄
- 一貫二百五拾目迄
- 一貫五百目迄

以上七種ナリ  
右ノ次第ニ附精々御知音中申合サレ多少共御注文ヲ願ヒ奉リ候也

東京淺草區左衛門町一番地

明治二十五年八月ヨリ發賣ヲ初ム 立 堂敬述

### 天下一般御得意中閣下

### 德育 古今名譽鑑 第二卷及ヒ以下目次

- 秀 吉賤ヶ嶽 ○板倉勝重袴 ○元 春 娶醜婦 ○搦 澤改心 ○朱買臣 夫婦
- 張 良 黄石公 ○范 睢 須 賈 ○天野屋 茶 席 ○蘭 丸 數 刀 鞘 ○高 德 書 櫻 樹
- 清 正 戰 新 納 ○大 岡 知 寶 母 ○田 單 攻 狄 ○玄 德 三 願 ○謝 玄 討 秦 兵
- 李 愬 擒 阮 濟 ○ナポレヲン 同 ○勝 家 破 不 缸 ○山 内 一 豐 馬 ○大 石 若 肉
- 関子 竊 父 子 ○趙 簡 子 試 二 子 ○曹 操 描 錢 ○曹 丕 爲 家 督 ○吉 宗 食 田 樂
- 晴 信 攻 海 口 ○元 就 遺 言 矢 ○祖 遜 渡 江 ○王 孫 買 母 子 ○李 廣 射 虎 石
- 莊王 夜 宴 冠 ○康 政 大 勇 ○忠 興 斥 光 秀 ○重 盛 諫 淨 海 ○矢 部 柿 木
- 豫 讓 刺 衣 ○馮 煖 燒 券 ○樊 女 公 忠 ○簡 相 如 匿 車 ○西 門 豹 水 神
- 堀 川 夜 討 ○生命 保 全 法 ○才智 生 餘 財 ○元 就 貽 宮 島 ○大 石 誑 喜 劇
- 白 顏 鐵 木 眞 ○孟 母 三 選 ○相 如 昇 仙 橋 ○曹 植 七 步 ○吉 宗 大 度

以下次號



●今般本章ノ通り德育智育新意匠畫附ノ器物ヲ發賣致シ候ニ付  
餘興トシテ忠臣藏初段目顔世御前ノ兜改メヨリ打入及ヒ兩國橋  
迄ノ處ヲ二十四圖ニ畫キ煎茶器珈琲碗等ノ両面ニ燒附ケ十二個  
（二ダース）ヲ以テ一組トシ販賣致候間御望ノ方ハ御注文ヲ乞フ

明治廿七年三月廿一日印刷  
同 年三月廿五日發行

定價金八錢

郵送料二錢

著作兼發行者

山田

榮造

東京淺草區左衛門町一番地

印刷者

瀨木

嘉三郎

東京淺草區左衛門町一番地

發行所

陶製標  
札本鋪立

堂

東京淺草區左衛門町一番地

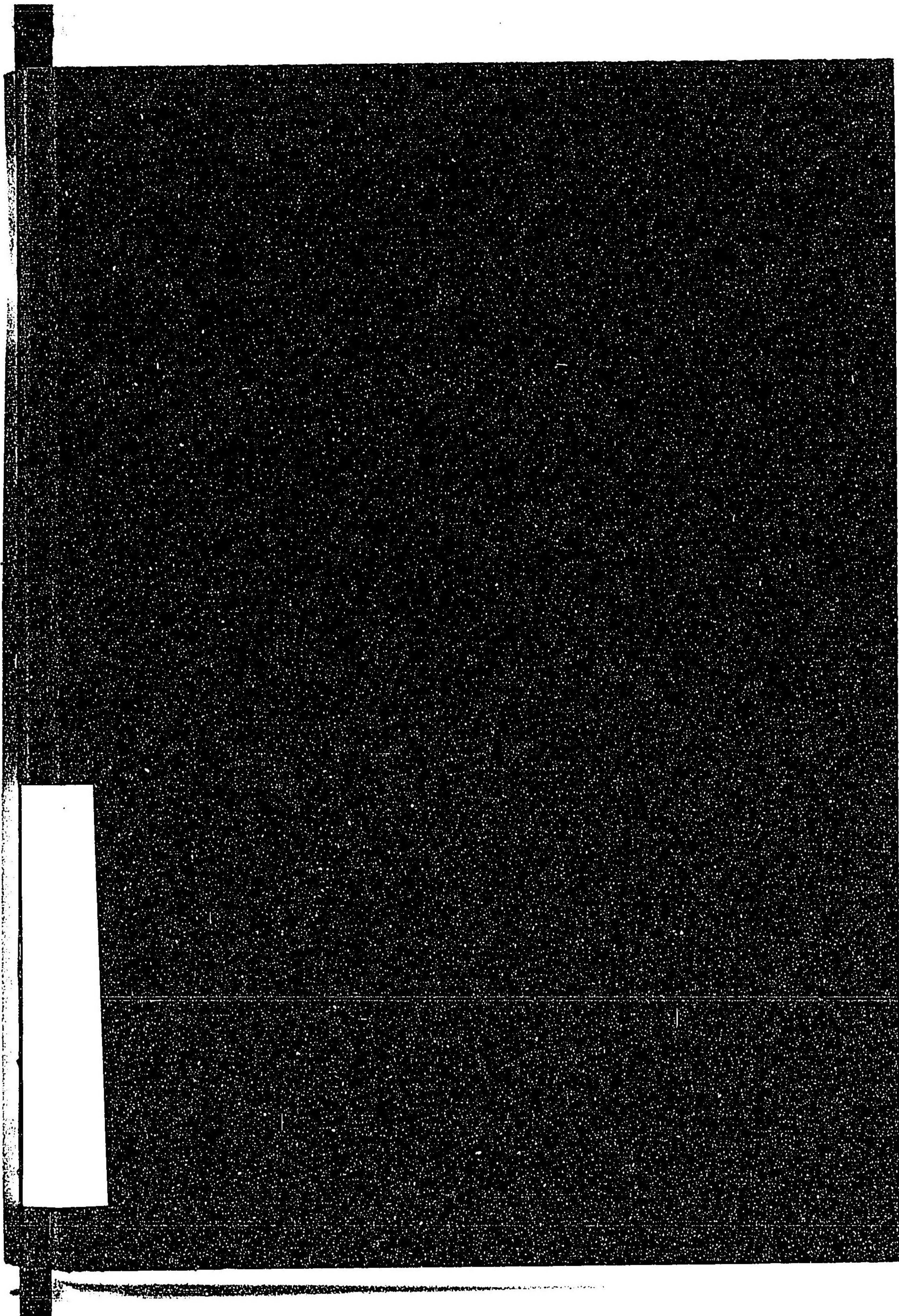
印刷所

東京並木活版所

東京淺草區墨船町廿八番地

版權  
所有







特 46

322

智育 德育 古今名譽鑑 1

国立国会図書館

004425-000-9

特 46-322

古今名譽鑑(德育、智育) 卷之一

山田 栄造 / 著

M27

ACE-0928

